

# JSDF

日本社会開発基金

年次報告  
2021～2022 年度



JSDF

日本社会開発基金



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局

© 2023 International Bank for Reconstruction and Development / The World Bank  
1818 H Street NW  
Washington DC 20433  
電話：202-473-1000  
ウェブサイト：www.worldbank.org

本年次報告は世界銀行職員により、外部専門家の協力を得て作成されたものです。本年次報告に記載の研究結果、解釈、結論は、世界銀行、世界銀行理事会、または加盟国政府の見解を必ずしも反映するものではありません。

世界銀行は本年次報告に掲載されたデータの正確性、網羅性、最新性を保証するものではなく、情報の誤り、脱落、矛盾に対する責任や、記載された情報、手法、プロセス、結論の使用又は不使用に関する責任を負うものではありません。本年次報告中の地図に示されている国境、色、名称等は、それぞれの地域の法的地位に対する世界銀行の意見や、こうした国境線への支持あるいは承認を示すものではありません。

本年次報告に含まれるいかなる部分も、世界銀行の特権及び免責についての制限又は放棄となるものではなく、そのように解釈されたりみなされたりすべきものではありません。全ての特権及び免責はここに明確に留保されます。

#### 権利と許可

本年次報告の内容は著作権の対象です。世界銀行は、知識の普及を奨励しており、出典として本園児報告が明記されることを条件に、非営利目的で本年次報告の全部又は一部を複製することを認めます。

副次的権利を含む、権利及びライセンスに関する問い合わせ先：

World Bank Publications, The World Bank, 1818 H Street NW, Washington, DC 20433, USA;  
FAX : 202-522-2625; E メール : pubrights@worldbank.org.

デザイン : Circle Graphics, Inc.

# JSDF

日本社会開発基金

年次報告  
2021～2022 年度



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局

## 局長からのメッセージ



**マイトレイ・  
ボルディア・ダス**  
開発金融総局  
信託基金・  
パートナーシップ局長

本年次報告は、日本社会開発基金（JSDF）の2021～22年度の活動を総括したものです。この2年間に、JSDFの活動は新たな時代を迎えました。JSDFは、日本政府と世界銀行グループによって2000年代初頭に設立されたマルチセクター型の革新的なグラント・プログラムです。社会の最貧困層・最脆弱層を対象とする開発プロジェクトを支援するもので、2021年に設立21年目を迎えました。

JSDFは、日本政府と世界銀行グループが20年前に定めた原則、すなわち革新性、不利な立場にある人々への対応、迅速な成果、能力構築、柔軟性を今も守り続けています。世界銀行にとって、2023年度は「世界銀行改革ロードマップ（Evolution Roadmap）」が正式に導入され、世界銀行グループのビジョンと使命が更新された重要な年でした。こうした中、JSDFの活動の価値もこれまで以上に高まっており、従来とは異なる組織と連携し、生活しやすい地球、貧困のない世界の実現に直接貢献し、革新的な開発ソリューションを大規模に展開するために試行するための貴重な手段を提供しています。

長い歴史を持つJSDFは、社会から取り残されてきた人々が世界規模の危機に対応するために欠かせない支援を提供してきました。JSDFはコロナ危機下でも大きな役割を果たしました。例えば、予想外の不確実性や組織的な課題に直面した際も、インパクトの大きなプログラムと斬新なアプローチを通じて、コミュニティへの支援を続けました。コロナ危機が最も深刻な状態にあった時期にさえ、多くの人々に自分たちの暮らしに影響を与えた決定に意見を述べ、自らの運命に対してより大きな責任を担う機会を提供しました。

日本政府はJSDFが設立された2000年以来、8億5,430万ドルをJSDFに提供しています。こうした貢献が大きなインパクトをもたらしたことは言うまでもありません。本年次報告の対象である2年間に、JSDFグラントの恩恵を直接的に受けた人は213万人に達し、その70%が女性でした。このうち、持続可能な生活の質向上に

向けた支援の受益者は71万5,658人、栄養改善と早期幼児開発に照準を合わせたプログラムの受益者は68万2,896人、持続可能な農業と気候変動への適応を支援するプロジェクトの直接受益者は66万198人でした。この他、包摂的教育に関するプロジェクトでは1万2,817人、現地のガバナンスと説明責任を高めるプロジェクトでは5万5,574人、基本的な保健・衛生サービスに関するプロジェクトでは792人に直接的な恩恵がもたらされました。

JSDFの支援の特徴は、持続可能であること、そして開発成果の大規模な展開を特に重視していることです。20年以上にわたり、JSDFが支援したパイロット・プロジェクトの主要な成果は、世界銀行グループや他の開発パートナーのプロジェクトや被援助国政府が資金を提供するプロジェクトで拡大・再現されてきました。


JSDFは、開発資金の深刻な不足を補う一方で、世界銀行の他の資金提供機会にはない独自の価値を提案しています。その手段として、現地の実施機関や非政府組織(NGO)と協力して脆弱なコミュニティを支え、明確な拡大戦略に沿って、革新的支援を試行できるよう強気に支援しています。世界銀行グループと日本のパートナーは、今後も目に見える利益を迅速にもたらし、市民社会の参加を促進するプログラムを推進してまいります。


世界銀行グループと被援助国は、JSDFに対する日本政府の力強く継続的な支援に心から感謝しています。JSDFは20年以上にわたり、目に見える利益を速やかに生み出し、オーナーシップ、能力、エンパワーメント、コミュニティ参加を強化することに注力してきました。JSDFには確かな実績があり、開発に与えるインパクトは明確で説得力があります。世界銀行グループが重視するJSDFを通じたインパクトの強化は、世界が複合的な危機に直面する中で人々の生活水準向上を図る開発ソリューションの原動力と位置づけられており、JSDFは、他の組織にはできない方法で、この取組みを力強く支援しています。




# 目次

局長からのメッセージ	ii
略語	vii

 概要	ix
JSDF とは	x
JSDF が果たす触媒としての役割	xi
2021～22年度のポートフォリオ概要	xi

 1. JSDF プログラムについて	1
1.1 プログラムの目的	1
JSDF のテーマ別優先課題	2
JSDF グラントの承認プロセス	3
1.2 財務概要	3
1.3 JSDF プログラム・グラントの種類	4

 2. 2021～22年度のプログラム活動	5
2.1 2021～22年度の被援助国実施型グラント・ポートフォリオの概要	5
2.2 実施状況と主な成果	6
2.3 融資の実行（実行中のグラントと終了したグラント）	8
2.4 通常プログラム・グラント	9
2.5 承認されたシード基金グラント	10
2.6 第5回アフリカ開発会議（TICAD V）	11
2.7 アフガニスタン特別枠グラント	12



### 3. プロジェクトのテーマ別概要 13

#### 3.1 生活の質の向上 14

キルギス共和国 – 若年層コミュニティの生活の質支援プロジェクト	15
イラク – 紛争の影響を受けた若者の包摂促進	17
ガーナ – 都市周辺部の市販野菜バリューチェーン・プロジェクト	19
アルメニア – 社会的包摂と自立活動の促進	21
ホンジュラス – ラ・モスキティアの先住民族ミスキート族の生活の質向上	23
モロッコ – コミュニティ主導型の農村道路保守	25
コソボ – 若者のための自治体プロジェクト	27
ヨルダン – 脆弱な若者のための総合的社会サービス	29

#### 3.2 栄養改善と早期幼児開発 30

ブルンジ – 母子の栄養強化プロジェクト	31
ベトナム – 北部山岳地帯の総合的小児栄養改善プロジェクト	33
エチオピア – 若い女性の生活の質向上・栄養改善プロジェクト	35
マラウイ – 青年期の栄養に配慮した農業パイロット・プロジェクト	37

#### 3.3 包摂的教育 38

キルギス共和国 – 学校改善に向けたコミュニティの関与	39
モンゴル – 起業に向けた社会情緒的スキルの向上： 農村部の特に脆弱な若者のために	41
ブルキナファソ – 障害児の教育の改善	43

#### 3.4 現地のガバナンスと説明責任 45

ルワンダ – 市民参画推進プロジェクト	45
ラオス人民民主共和国 – 脆弱なコミュニティのための 公開情報・意識向上サービス	47
ザンビア – 発言と説明責任：現地サービス向上のための コミュニティ・エンパワーメント・プロジェクト	49

#### 3.5 基礎的な保健・衛生サービス 51


エボラ流行後のコミュニティ参加型の地方自治体サービス提供の強化	51
ベトナム – 高齢者の所得・保健関連の脆弱性の低減	53

#### 3.6 第5回アフリカ開発会議 (TICAD V) グラント 55

セネガル – 食料・栄養不足に対する強靱性構築	55
コートジボワール – 栄養価の高い農作物の栽培と 小規模・零細農家の能力構築支援プロジェクト	57
コンゴ共和国 – プール地方の持続可能な生活の質支援	60



3.7 アフガニスタン特別枠グラント	62
アフガニスタン – 女性の経済的エンパワーメント	62
アフガニスタン – 戦略的穀物備蓄	65

 4. アウトリーチ、知識、プログラムの管理	67
4.1 JSDF 対話シリーズ	67
カンボジア – より良いサービス実現のための社会的説明責任プロジェクト	67
ベトナム – 北部山岳地帯の総合的小児栄養改善プロジェクト	69
4.2 プログラムの管理と運営	70
4.3 日本の認知度向上戦略	71

 5. 結論	73
5.1 2022 年度独立評価の結果	73
5.2 未来に向けて	77

## ANNEX 1. BACKGROUND TABLES 79

### 表

表 2.3.1 2021～22 年度のポートフォリオ： 被援助国実施型グラントの地域別累積実行実績	8
表 2.3.2 2021～22 年度のポートフォリオ： 被援助国実施型グラントのプログラム別累積実行実績	9
表 2.3.3 2021～22 年度のポートフォリオ： 被援助国実施型グラントのグローバル・プラクティス別累積実行実績	9
表 2.5.1 2021～22 年度に承認されたシード・グラント	10
表 2.6.1 報告対象期間に実行中だった TICAD V 栄養スケールアップ運動（SUN）プログラム枠の JSDF グラント	11
表 2.6.2 報告対象期間に TICAD V で実行中だった元戦闘員の 社会復帰支援プログラム枠の JSDF グラント	12
表 2.7.1 報告対象期間に実行中だったアフガニスタン特別枠の JSDF グラント	12

### 図

図 2.1.1 JSDF ポートフォリオを構成する被援助国実施型グラントの プログラム種類別の割合（2021～22 年度）（単位：ドル）	5
図 5.1.1 1) プロジェクト開発目標と 2) 総合的な成果に基づく有効性評価（プロジェクト数）	75
図 5.1.2 プロジェクトの持続可能性チャネル	76



# 略語


<b>AFE</b>	Africa East Region 東アフリカ地域	<b>EAP</b>	East Asia and Pacific 東アジア・太平洋地域
<b>AFW</b>	Africa West Region 西アフリカ地域	<b>ECA</b>	Europe and Central Asia ヨーロッパ・中央アジア地域
<b>BARM</b>	Bangsamoro Autonomous Region in Muslim Mindanao バンサモロ自治地域	<b>EOJ</b>	Embassy of Japan 日本大使館
<b>CBO</b>	Community-based organization コミュニティ組織	<b>FM</b>	Financial management 財務管理
<b>CBSG</b>	Community-based savings group コミュニティ貯蓄グループ	<b>FY</b>	Fiscal Year 会計年度（7月1日～6月30日）
<b>CGIAR</b>	Consultative Group for International Agricultural Research 国際農業研究協議グループ	<b>GDP</b>	Gross domestic product 国内総生産
<b>CPF</b>	Country Partnership Framework 国別パートナーシップ枠組み	<b>GoJ</b>	Government of Japan 日本政府
<b>CSLICP</b>	Cambodia Sustainable Livelihood for Indigenous Communities Project カンボジア：先住民族コミュニティの持続可能な生活の質プロジェクト	<b>GRM</b>	Grievance redress mechanism 苦情処理メカニズム
<b>CSO</b>	Civil society organization 市民社会組織	<b>IC</b>	Indigenous community 先住民族コミュニティ
<b>COVID</b>	Coronavirus Disease コロナウイルス感染症	<b>ICR</b>	Implementation Completion Results report 実施完了結果報告書
<b>DFTPR</b>	Development Finance Vice Presidency, Trust Funds and Partner Relations Department 信託基金・パートナーシップ局	<b>IDA</b>	International Development Association 国際開発協会
		<b>I-SAF</b>	Implementation of Social Accountability Framework 社会的説明責任フレームワーク実施
		<b>ISHC</b>	Intergenerational Self-Help Club 多世代間自助クラブ
		<b>ISR</b>	Implementation Status Report 実施状況報告書
		<b>JICA</b>	Japan International Cooperation Agency 国際協力機構

<b>JSDF</b>	Japan Social Development Fund 日本社会開発基金	<b>PDR</b>	People' s Democratic Republic 人民民主共和国
<b>LAC</b>	Latin America and the Caribbean ラテンアメリカ・カリブ海地域	<b>PIU</b>	Project implementing unit プロジェクト実施ユニット
<b>LC</b>	Local council 地方自治体	<b>RE</b>	Recipient-executed 被援助国実施型
<b>LIWG</b>	Land Information Working Group 土地情報ワーキング・グループ	<b>SAR</b>	South Asia region 南アジア地域
<b>LMIC</b>	Lower-middle-income country 低中所得国	<b>SDG</b>	Sustainable Development Goal 持続可能な開発目標
<b>M&amp;E</b>	Monitoring and evaluation モニタリング・評価	<b>SGR</b>	Strategic Grain Resource 戦略的穀物備蓄
<b>MIS</b>	Monitoring information system モニタリング情報システム	<b>SUN</b>	Scaling Up Nutrition 栄養スケールアップ運動
<b>MNA (MENA)</b>	Middle East and North Africa 中東・北アフリカ地域	<b>TF</b>	Trust Fund 信託基金
<b>MoU</b>	Memorandum of Understanding 覚書	<b>TICAD</b>	Tokyo International Conference on African Development アフリカ開発会議
<b>MSMEs</b>	Micro, small, and medium enterprises 中小・零細企業	<b>ToT</b>	Training of trainers 指導者向け研修
<b>NGO</b>	Non-Governmental Organization 非政府組織	<b>TTL</b>	Task team leader タスクチーム・リーダー
<b>PDO</b>	Project Development Objective プロジェクト開発目標	<b>TVET</b>	Technical and Vocational Education and Training 技術・職業教育訓練



## 概要



 本社会開発基金（JSDF）は、日本政府と世界銀行グループのパートナーシップとして、途上国の最脆弱層や極めて不利な立場にある人々に恩恵をもたらす革新的な活動を広く支援しています。

JSDF は、開発資金の深刻な不足を補う一方で、世界銀行の他の資金提供機会にはない独自の価値を提案しています。JSDF の特徴は次の通りです。



**実施機関は NPO や市民社会：**現地の政府や NGO と協力し、受益者のニーズに沿ったプロジェクトを設計することにより、対象となる受益者を効率的に支援し、現地の実施能力を強化。



**革新性：**革新的なソリューションはまず試験的に実施し、コンセプトを実証した上で広く展開することを重視。



**持続可能性：**キャパシティ・ビルディングを通じて、人々がプロジェクトを適切に実施し、コミュニティの能力を長期的に強化し、プロジェクトの終了後も成果を維持するための土台を構築できるよう支援。プロジェクトの出口戦略を明確化することにより、地方自治体や中央政府、他の開発パートナー、又は世界銀行の融資からフォローアップに必要な資金を確保。

最近実施された JSDF プログラムの独立評価の結果<sup>1</sup>が端的に示す通り、「JSDF グラントは、地域が独自のインパクトとイノベーションを実現し、持続可能性の実現方法を明確にする上で強力な役割を果たしています。

<sup>1</sup> Dalberg, “JSDF FY 2022 Independent Assessment 2023-2020” (2023 年 1 月)

# JSDF とは

JSDF グラントは、受益者の貧困削減と社会開発、生活の質の向上に注力しています。JSDF のプロジェクトは革新的な開発アプローチを取り入れ、大規模に展開する前の試行の場として、受益者自らが、又は政府、世界銀行、その他の開発パートナーの支援を通じて実施されています。つまり JSDF の支援は、JSDF が提供するグラントをはるかに超えるインパクトをもたらすのです。世界銀行グループは、被援助国の政府や他の開発パートナーと協力しながら、JSDF のアプローチを拡大し、様々な開発関係機関と連携して、世界銀行の幅広い融資業務において頻繁に活用しています。この重要な乗数効果により、JSDF は社会から取り残されてきた大勢の人々や脆弱層を支援できるのです。

JSDF は、全ての JSDF グラントにキャパシティ・ビルディングのコンポーネントを含めることを義務付けています。コミュニティの参加がプログラムの主要な柱に据えられたことで、最大 7 万 5,000 ドルのシード基金グラントを世界銀行のタスクチームに提供できるようになりました。この資金は、タスクチームが被援助国政府、直接受益者、その他ステークホルダーと協力して、プロジェクト設計段階で行うコンサルテーションの強化に活用されます。また、JSDF は緊急プログラムや特別プログラムを通じてグラントを提供するなど、柔軟な活動が可能です。

JSDF グラントは、JSDF の戦略的枠組みに沿ったものでなければなりません。そのためには以下の条件を満たす必要があります。



## 革新的：

プロジェクトには、社会の最貧困層や長く排除されてきた人々のニーズに直接応える革新的な開発アプローチやアイデアが採用されています。前例のないイノベーションを用いたプロジェクトもあれば、当該国では未採用でも他国では試験的に実施され成果を上げているアプローチを用いたプロジェクトもあります。



## 脆弱層や社会から取り残されてきた人々への対応：

コミュニティ主導型開発を推進し、草の根レベルのエンパワーメントを通じて、脆弱層や社会から取り残されてきた人々が生活の質を向上させる取組みに参加できるよう支援しています。



## 迅速な対応の促進：

プロジェクトは目に見える成果を速やかに上げ、対象となる受益者やステークホルダーに持続可能な恩恵をもたらしています。



## 機能構築の重視：

現地のコミュニティ、NGO、市民社会組織 (CSO)、その他ステークホルダーのキャパシティ・ビルディング、参加、エンパワーメントを促進し、組織・制度面の能力を強化することにより、対象グループの人々が開発に参加できるよう支援しています。

# JSDF が果たす触媒としての役割

JSDF グラントの支援対象は、主流の支援が十分に届かない最貧困層を対象とするプロジェクトです。世界銀行の支援をもとに、革新的な活動を大規模に展開する前にパイロット・プロジェクトとして試験的に実施され、政策策定の参考となる情報を提供します。

JSDF の成果枠組みは 2 つの柱（ティア）で構成され、JSDF グラントの成果が JSDF のより高いレベルの目標、そして世界銀行グループの目標の達成に結びつくようになっています。ティア II の目的は、開発目標の達成状況を維持するために、JSDF プロジェクトを世界銀行グループや他の開発パートナー、被援助国政府のプロジェクトで拡大・再現することです。JSDF グラントは貧困や脆弱性に関する各国の政策にも生かされています。他の国で実施された支援策を試験的に実施することで、有効性に関するエビデンスを蓄積し、支援策の大規模な展開に必要な支持を政府から得ることもできます。

## 2021～22 年度のポートフォリオ概要

JSDF が設立された 2000 年から 2022 年度までに日本が JSDF に提供した資金は約 8 億 5,430 万ドルに上ります。うち、JSDF グラントに配分されたのは、総額の 93% に当たる 7 億 9,850 万ドルでした。2022 年度末時点での累積実行額は約 6 億 2,100 万ドル（配分総額の 78%）でした。2021～22 年度の実行中グラントによる取り組みは、開発目標に向けて順調に進捗しており、2021 年度に終了したグラントは開発目標をおおむね達成しました。

- 本年次報告の対象となる 2021～22 年度のポートフォリオは、世界銀行実施型グラントと被援助国実施型グラントの両方で、総額約 1 億 1,860 万ドルです。ポートフォリオには、2021～22 年度に実行中だった 84 件の信託基金グラントすべてが含まれます（進行中の活動、新規承認グラント、本年次報告の対象期間に終了したグラント）。
- 2021～22 年度に実施されたグラントは、JSDF の戦略的枠組みや世界銀行グループが掲げる重点分野とも一致しており、世界銀行グループと当該政府間の国別パートナーシップ枠組み（CPF）に記載された国別開発戦略を支援するものでした。
- 2021～22 年度は 13 件のプロジェクト（総額 3,780 万ドル）が新規に承認されました。支援対象となった JSDF のテーマ別重点分野は、(1) 生活の質の向上、(2) 栄養改善と早期幼児開発、(3) 包摂的教育、(4) 環境面で持続可能な農業、(5) 現地のガバナンスと説明責任、(6) 基礎的な保健・衛生サービスです。プロジェクトの一覧は Annex 1（英語）をご覧ください。
- 2021～22 年度は 13 件のプロジェクト（総額 3,450 万ドル）が終了しました。詳細は第 3 章をご覧ください。
- 本年次報告の対象期間最終日の時点で実施中のプロジェクトは 27 件（8,400 万ドル相当）でした。
- 2021～22 年度は 3 件のシード基金グラント（総額 19 万 7,121 ドル）が承認され、プロジェクト・プロポーザルの設計・準備の強化に活用されました。

# 2021～22年度のポートフォリオ：

# 1億1,860万ドル

(世界銀行実施型グラントと被援助国実施型グラントの両方で)

合計84件の信託基金(TF)グラント

2021～22年度のポート  
フォリオのうち、**新規承認  
プロジェクトは13件、  
総額3,780万ドル**

2021～22年度に  
**終了した  
プロジェクトは13件、  
総額3,450万ドル**

2021～22年度末時点で  
**実施中だった  
プロジェクトは27件、  
総額8,400万ドル**相当



## 外部評価の結果、ポートフォリオは極めて妥当かつ有効で持続可能

2021～22年度を対象とする本報告は特集を組み、開発コンサルティング企業であるダルバーグ・アドバイザーズが2022年に実施した、JSDFの過去7年間の活動の第三者評価の結果を紹介しています。データの収集・分析は、複数の手法を組み合わせることで実施されました。主要な関係者へのインタビュー、世界銀行のタスクチーム・リーダー（TTL）に対する調査、46件のグラントの文書レビューに加えて、10件のJSDFグラントの精査、9カ国（ボリビア、カンボジア、ジブチ、エジプト、ガーナ、グアテマラ、インド、ケニア、ウガンダ）の現地視察が実施されました。分析自体は2022年度に実施された一方、分析の対象となったプロジェクトには、本報告の対象期間である2021～22年度には実施されていなかった古いプロジェクトも含まれることは注目に値します。つまり、分析結果は本報告の対象期間に実施中だったプロジェクトだけでなく、より広範なJSDFプログラムを対象としています。

ダルバーグ・アドバイザーズによるインタビューでは、ほとんどの参加者がJSDFグラントは開発資金の不足を補い、他のドナーや政府が対応していない開発問題に充てられたと回答しました。これは、世界銀行のTTLに対する調査の94%でも裏付けられています。この結果は、JSDFグラントには3つの特徴があることが分かりました。すなわち(1) JSDFグラントはTTLが現地の実施機関と協力して脆弱なコミュニティに働きかけ、地域のニーズに合った支援を提供できるようにした、(2) JSDFグラントは、TTLが他の組織と協力して、新しい支援策を試験的に実施するために不可欠だが不足している資金を提供している（パイロット・アプローチとイノベーションを重視



することから、TTL は新しい支援をまずは小さな規模で試した後、広く展開することで大規模プロジェクトの成功率を高めることが可能)、(3) 評価対象となった 46 件のグラントで様々な革新的アイデアが実行されたことが示す通り、JSDF はイノベーションを効果的に促進していること、の3点です。グラントの設計段階から、その革新性を証明することを TTL に明確に義務付けていることが、先駆的な支援を実現する鍵となっています。

分析対象となったグラントはその大半がプロジェクト開発目標 (PDOs) を達成しました。文書レビューでサンプル抽出されたプロジェクトの 92%は、プロジェクト開発目標の達成状況は「やや満足」又は「満足」でした。サンプル抽出された JSDF グラントの受益者は合計 6,040 万人と推定され、特に受益者が多かった分野は栄養改善と早期幼児開発、逆に少なかったのは基本的な司法サービスと生活の質の向上でした。

評価対象となったグラントの大半では、プロジェクトの成果を長期的に維持する方法が明確になっていたことも、JSDF のインパクトの大きさを浮き彫りにしています。評価の結果、現地視察が行われたプロジェクトでは例外なく、4 つのチャンネル (成果の持続可能性、世界銀行による導入と拡大、開発パートナーによる導入と拡大、政府による導入と拡大) のいずれかを通じて、プロジェクトの成果が維持されていることが分かりました。

評価では、改善が必要な分野が特定され、対応策が提言されました。世界銀行は、これらの提言を今後数カ月以内に取り入れる予定です。例えば評価の結果、ジェンダー指標を含むグラントは 68%にとどまり、当該ジェンダー指標を達成したグラントに至っては、50%もないことが明らかになりました。現在の成功を維持するために JSDF が取り組むべき業務上及び戦略上の課題も特定されました。評価結果と提言内容は世界銀行と日本政府の間で協議中であり、新年度に JSDF を改善するための行動計画が策定される予定です。





# 1. JSDF プログラムについて

## 1.1 プログラムの目的

日本社会開発基金（JSDF）は、日本政府と世界銀行グループが共同で推進する開発のためのパートナーシップです。1990年代後半に起きた世界金融危機が最貧困層・最脆弱層に与えた広範な影響を緩和するために2000年6月に設立されました。

設立当初は、世界金融危機から最も深刻な影響を受けた国々の特に恵まれない人々に直接グラント支援を提供していましたが、後に支援の範囲を広げ、対象となる途上国で最も排除されてきた人々に恩恵をもたらし、生活の質の向上を促す革新的な活動にグラントを提供するようになりました。現在は貧困削減に加え、長期的な社会開発や生活の質の向上に迅速な成果をもたらす取組みを小規模なプロジェクトを通じて支援しています。実証可能で持続可能な成果をもたらすパイロット・プロジェクトを支援することにより、JSDFは革新的な開発アプローチの使用を促進しています。こうしたアプローチは、社会から取り残された人々や最脆弱層への支援を拡大するために、被援助国政府や世界銀行グループ、その他の開発パートナーが資金を提供するプロジェクトで拡大・再現することができます。

JSDFグラントは、重点対象国の適格対象者に提供されます。世界銀行が支援するプロジェクトの大半は現地の中央政府が実施機関ですが、JSDFグラントの場合、非政府組織（NGO）や市民社会組織（CSO）、地方自治体の実施機関であり、後にコミュニティ単位で実施されることも少なくありません。日本政府はJSDFプログラムの唯一の資金提供者として、これまでに8億5,430万ドルを提供してきました。JSDFは主に低所得国と低中所得国において、貧困削減と社会的保護に取り組むプログラムにグラントを提供しています。特に重点を置いているのは次の6つのテーマ別分野です。

## JSDF のテーマ別優先課題

JSDF は、次の 6 つのテーマ別重点分野に注力しています。



### 1 生活の質の向上

脆弱な貧困層の雇用と生計手段へのアクセス改善



### 2 栄養改善と早期幼児開発

基礎的な保健・衛生サービス（特に青年期女子、妊婦、授乳中の母親、0～5歳の乳幼児向けのサービス）へのアクセス改善、最貧国や極めて不利な立場にあるコミュニティの幼児を対象とした早期刺激・学習プログラムへのアクセス



### 3 包摂的教育

辺鄙な農村部の児童、障害児、及び女子の基礎的な教育機会の拡大



### 4 環境面で持続可能な農業と気候変動

小規模・零細農家の農業生産性の向上、環境面で持続可能な農法の奨励



### 5 現地のガバナンスと説明責任

貧困層・脆弱層の法的権利に関する知識の向上と権利執行メカニズムへのアクセスの確保、コミュニティの参加促進と現地政府の能力向上



### 6 基礎的な保健・衛生サービス

整備された保健・衛生サービスへのアクセス向上

## JSDF グラントの承認プロセス

JSDF はプロジェクト設計に効果的な参加型アプローチを取り入れる「コミュニティ主導型開発 (CDD)」を積極的に推進しています。将来的に受益者となる可能性のあるコミュニティ等、重要なステークホルダーと協議することは、プロジェクトに対するオーナーシップを高め、効果を上げる上で不可欠であることを踏まえて、JSDF は初期設計段階で行うコンサルテーション・プロセスを強化するために、世界銀行グループの特定のタスクチームに最大7万5,000ドルのグラントを提供します。

ドナー間の調和と相乗効果の促進を図りつつ開発業務の重複を避けるため、世界銀行グループ・タスクチームは受益国に置かれた日本大使館の職員や JICA 現地事務所代表者とも協力して取り組んでいます。

世界銀行の内部で、JSDF グラントには小規模な被援助国実施型信託基金グラントの手続きが進められます。審査は2段階で行われ、各段階で該当するグローバル・プラクティスと当該国の国別局長によるレビューと承認を受けます。日本政府も各段階でパッケージとして評価し、日本政府の戦略的優先事項と一致しているかを確認しています。

## 1.2 財務概要

日本政府は JSDF の設立以来、20 年以上にわたって JSDF を資金面から力強く支えてきました。2021～22 年度も日本政府は支援を継続しました。

JSDF の設立以来、日本政府が JSDF に提供した資金は約8億5,430万ドルに上り、2022年度末時点で、その93%に当たる7億9,850万ドルが JSDF グラントに配分されました。2022年度末時点の累積実行額は約6億2,100万ドル（配分総額の78%）です。未配分残高の大部分は準備段階の活動にコミットされています。



## 1.3 JSDF プログラム・グラントの種類

現在の JSDF グラントは次の 3 種類に分類されます。

1. **通常プログラム・グラント**：短期間で成果を上げる革新的なアプローチを用いて、主流のプログラムでは対象とならない貧困層に直接恩恵をもたらす革新的な活動を支援するグラント。全てのグラントにはキャパシティ・ビルディングのコンポーネントが含まれ、現地のコミュニティや NGO、CSO 等のステークホルダーの権限やスキルを強化し、組織・制度面の能力を高めることにより、対象グループの人々が実地学習を通じて開発に参加できるよう支援しています。報告対象期間に実施されたプロジェクトは 35 件、配分総額は 9,920 万ドル（うち、被援助国実施型は 8,980 万ドル）でした。
2. **シード基金グラント**：報告対象期間に 3 件のシード基金グラントが実施され、配分総額は 19 万 7,121 ドルでした。
3. **第 5 回アフリカ開発会議（TICAD V）－行動計画の実施**。日本政府は TICAD V 行動計画の実施を支援するために 2 つの重点分野、すなわち栄養スケールアップ運動（SUN）と元戦闘員の社会復帰支援に 3,000 万ドルを提供しました。この枠では、報告対象期間に 3 件のプロジェクトが実施され、配分総額は 870 万ドルでした。

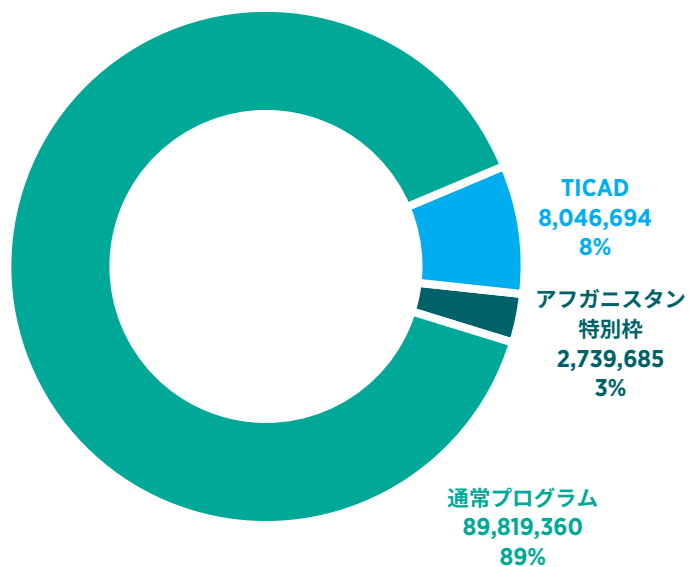
この他、アフガニスタン特別枠内で報告対象期間に 2 件、配分総額 319 万ドルのプロジェクトが実施されました。アフガニスタン特別枠は、社会サービスの提供、生産性の高いインフラ・プロジェクトの推進、コミュニティによる実行管理の促進、及びコミュニティ・ガバナンスの浸透によって、アフガニスタンの復興を支援し、コミュニティ・レベルの政府の基礎を構築することを目的として創設されたものです。2 件のプロジェクトのうち、1 件は中止され、もう 1 件は 2021 年度に終了しました。その後、アフガニスタン特別プログラムは段階的に終了し、現在は新規グラントの申込みは受け付けていません。

## 2. 2021～22年度の プログラム活動

### 2.1 2021～22年度の被援助国実施型 グラント・ポートフォリオの概要

2021～22年度の被援助国実施型グラントは40件、総額1億60万ドルでした。この数字には、同期間に終了したグラントと、翌年度に持ち越されたグラントの両方が含まれます。2021～22年度は13件、実行総額3,130万ドルの被援助国実施型グラントが終了しました。ポートフォリオの89%に相当する35件は通常プログラムのグラントであり、このうち8件は報告対象期間に終了しました。アフガニスタン対応枠のグラントは2件（ポートフォリオの3%。うち1件は中止、残る1件は報告対象期間に終了）、第5回アフリカ開発会議（TICAD V）枠のグラントは3件（ポートフォリオの8%、いずれも報告対象期間に終了）でした（表2.1.1参照）。

図 2.1.1  
JSDF ポートフォリオを構成する被援助国  
実施型グラントのプログラム種類別の割合  
(2021～22年度) (単位：ドル)



出典：DFTPR

## 2.2 実施状況と主な成果

**開発目標の達成：**2022年度に実施された JSDF ポートフォリオの独立評価では、過半数のプロジェクトが開発目標を順調に達成しており、92%のプロジェクトがプロジェクト開発目標の達成度や終了時の総合的な成果について「満足」又は「やや満足」の評価を得ました。分析作業は2022年度に実施されましたが、サンプル抽出されたプロジェクトには本報告の対象期間（2021～22年度）には実施されていなかった古いプロジェクトが含まれています。つまり、分析は本報告の対象期間に実施中だったプロジェクトのみではなく、より広範なプログラムを対象としていることにご留意ください。

**2021～22年度に達成された主な成果：**本報告の対象となる2年間に JSDF グラントの直接受益者は213万人に達し、その70%が女性でした。内訳は次の通りです。

- ガーナ、マラウイ、アフガニスタン、セネガル、コートジボワール、コンゴ、エチオピア、インド、ヨルダン、イラク、ソロモン諸島、キルギス共和国、ウクライナでのプロジェクトを通じて、71万5,658人が持続可能な生活の質向上支援の恩恵を享受。これらのプロジェクトは合計2万4,421人分の新規雇用を創出し、3万59人に新たな雇用機会を提供。2万7,504人が生計手段を得るための研修に参加。
- ベトナム、マラウイ、セネガル、コートジボワール、ガーナ、エチオピア、ブルンジでは、合計68万2,896人が栄養改善と早期幼児開発を目的としたプログラムの恩恵を享受。具体的には、妊婦や授乳中の母親に基礎的な教育と栄養を提供するプログラム、2歳未満児を対象とする月次モニタリングや食習慣の改善に関するプログラム等。
- ガーナ、ベトナム、セネガル、コートジボワール、ブルンジでは、持続可能な農業と気候変動への適応を支援するプロジェクトを通じて、66万198人が直接的な恩恵を享受。例えば、森林地帯の先住民族1万4,597人がより良い機会に恵まれるようになったほか、3万122人の農民が気候変動対応型の農業技術を導入。
- この他、ソロモン諸島とウクライナでは包摂的教育（直接受益者：1万2,817人）、アフガニスタン、ヨルダン、シエラレオネでは現地のガバナンスと説明責任（直接受益者：5万5,574人）、ソロモン諸島では基本的な保健・衛生サービス（直接受益者：792人）に関するプロジェクトを支援。

**2021～22年度の実施状況：**報告対象期間に実施された JSDF プロジェクトは、他にも様々な知見や経験をもたらしました。多くのプロジェクトに共通して見られた重点テーマは女性のエンパワーメントと包摂です。様々な地域やプロジェクトでジェンダーに配慮したアプローチが導入され、複数のイニシアティブで女性の参加を促進する協調的な取り組みが実行されました。ジェンダー関連の啓発キャンペーンや女性グループのキャパシティ・ビルディング、資本アクセスに関する

コーチングは、その代表的なものです。総合的に見ると、ほとんどのプロジェクトが受益者の少なくとも40～50%を女性とすることを目標に掲げ、若い女性の雇用適性と起業スキルを高めることでジェンダーの平等を推進しました。

多くのプロジェクトに共通して見られたもう1つの重点テーマは、地域、地方、村落レベルでのガバナンス・メカニズムの重要性です。これらのプロジェクトでは、関係者との関係構築が成功の条件となることが多く、関係構築はセクター間の協力を実現する上で中心的な役割を果たしました。既存の連携メカニズムを活用することで、共通の目標の達成に欠かせないオープンなコミュニケーション、相互理解、信頼、説明責任が促進されました。

一部のプロジェクトは、セクター横断的な設計とアプローチを革新的な方法で取り入れ、食料不足の様々な側面に対応し、脆弱層の生計手段と雇用適性を改善しました。しかし、全てが順調に進んだわけではありません。多くのプロジェクトでは、現地の治安の悪化、人材確保の難しさ、世界銀行の手続き（特に財務管理や調達政策・指針）の理解不足などから、プロジェクトの実施に遅れが生まれました。特に複数の部門がプロジェクト管理に関与している場合は、組織的な取決めが問題となることがありました。その結果、特にプロジェクトの初期に調達プロセスの長期化や不要な遅延が頻発しました。

多くのプロジェクトが実施中に再編されましたが、その理由は、合意内容の整理からコロナ危機のような不測の事態への対応まで、多岐にわたりました。再編の内容は、終了日の延期や資金の再配分、実施機関の変更、組織的取決めの見直しなどです。例えば、一部のプロジェクトは遅延に対応し、グラントの残額を様々な活動に再配分するために終了日を延期しました。

こうした課題はあったものの、多くのプロジェクトは成果を上げ、目標を達成しました。中には、目標を上回る結果を出したプロジェクトもあります。ジェンダーに焦点を合わせたアプローチも良い結果をもたらしました。しかし、改善の余地がある分野も明らかになりました。例えば、女性の仕事に関する社会規範が原因で対象の絞り込みが必要となるケースがありました。現地のジェンダー規範が女性の雇用の障壁となる場合があったからです。プロジェクトが高い成果を上げるためには、ステークホルダー間の調整や関与を強化することが引き続き不可欠です。一方、民間セクターと組んで雇用関連のキャパシティ・ビルディングを実施したり、女性の参加に対する前向きな対応を維持したりすることも、プロジェクトがもたらすインパクトの向上につながる可能性があります。また、プロジェクトの成果を飛躍的に高めるには、緊密かつ頻繁な監督が重要な要因となる可能性があることも明らかになりました。

結論としては、問題が起きることはあったものの、女性のエンパワーメント、ガバナンス、協力に重点を置くことで、多くのプロジェクトが成功を収めました。これらのプロジェクトから得られた知見は、将来のイニシアティブがもたらすインパクトを最大化するための貴重な教訓となるはずです。


## 2.3 融資の実行（実行中のグラントと終了したグラント）

2021～22年度は40件の被援助国実施型グラントが実行されました。累積実行額は、グラント総額（1億60万ドル）の51%に相当する5,130万ドルでした（表2.3.1参照）。

地域別で見ると、グラントの件数が最も多かったのはアフリカ地域の13件で、2022年度末までに配分額（3,450万ドル）の75%が実行されました。2021～22年度ポートフォリオの実行中グラントと終了したグラントの地域別実行実績は表2.3.1の通りです。次にグラントの件数が多かったのは東アジア・太平洋地域です。本報告の対象期間における実行中グラントは10件、配分額は2,450万ドル、平均実行率は30%でした。この地域の平均実行率が低い理由としては、他の地域と比べて、初期段階にあるグラントの比率が高かったことが挙げられます。

表2.3.2は、通常プログラム、アフガニスタン対応枠、シード基金（TICAD）における、2021～22年度の被援助国実施型活動の累積実行額の内訳です。

表2.3.3は、2021～22年度の累積実行額をグローバル・プラクティス別に示したものです。世界銀行のグローバル・プラクティスには、マクロ経済、貿易・投資、金融・競争力・イノベーション、貧困・公正、運輸、デジタル開発、エネルギー・採掘、環境・天然資源、ガバナンス、水、教育、社会的保護・雇用、農業、保健・栄養・人口、都市・強靱性・土地等があります。

 **表 2.3.1**  
2021～22年度のポートフォリオ：  
被援助国実施型グラントの地域別累積実行実績

地域	被援助国 実施型 グラントの 件数	グラント総額 (ドル)	2022年度末時点の 実行額 (ドル)	実行率 (%)
東アフリカ地域 (AFE)	6	15,209,891	9,317,578	61%
西アフリカ地域 (AFW)	7	19,255,258	16,441,653	85%
東アジア・太平洋地域 (EAP)	10	24,540,747	7,258,360	30%
ヨーロッパ・中央アジア地域 (ECA)	6	16,288,324	6,588,538	40%
ラテンアメリカ・カリブ海地域 (LAC)	2	5,462,000	983,662	18%
中東・北アフリカ地域 (MNA)	5	13,138,329	4,568,386	35%
南アジア地域 (SAR)	4	6,711,192	6,114,440	91%
<b>合計</b>	<b>40</b>	<b>100,605,740</b>	<b>51,272,616</b>	<b>51%</b>

出典：DFTPR





### 表 2.3.2

#### 2021～22年度のポートフォリオ： 被援助国実施型グラントのプログラム別累積実行実績

JSDFプログラムの種類	被援助国 実施型 グラントの 件数	グラント総額 (ドル)	2022年度末時点の 実行額 (ドル)	実行率 (%)
通常プログラム	35	89,819,360	40,551,804	45%
アフリカ開発会議 (TICAD)	3	8,046,694	7,981,127	99%
アフガニスタン特別枠	2	2,739,685	2,739,685	100%
<b>グラント合計</b>	<b>40</b>	<b>100,605,740</b>	<b>51,272,616</b>	<b>51%</b>

出典：DFTPR



### 表 2.3.3

#### 2021～22年度のポートフォリオ： 被援助国実施型グラントのグローバル・プラクティス別累積実行実績

グローバル・プラクティス	被援助国 実施型 グラントの 件数	グラント総額 (ドル)	2022年度末時点の 実行額 (ドル)	実行率 (%)
社会の持続可能性と社会的包摂	12	29,824,452	15,346,217	51%
保健・栄養・人口	12	31,423,938	21,139,915	67%
農業・食料	5	9,578,039	4,730,589	49%
社会的保護・雇用	3	8,289,685	4,913,576	59%
金融・競争力・イノベーション	2	5,130,000	2,439,425	48%
運輸	2	5,600,000	331,173	6%
教育	2	5,504,605	1,485,299	27%
都市・強靱性・土地	1	2,505,020	369,050	15%
ガバナンス	1	2,750,000	517,372	19%
<b>グラント合計</b>	<b>40</b>	<b>100,605,740</b>	<b>51,272,616</b>	<b>51%</b>

出典：DFTPR

## 2.4 通常プログラム・グラント

2021～22年度、通常プログラムでは合計13件、総額3,780万ドルのプロジェクトが承認されました。これらのプロジェクトが支援するJSDFのテーマ別重点分野は多岐にわたりました。例えば、カンボジア、ウズベキスタン、ケニア、インドネシア、ヨルダン川西岸地区・ガザ地区では脆弱層（先住民族、農村女性、十分なサービスを受けていない都市住民、その他の脆弱なコミュニティ）の生活の質の向上を支援するプロジェクト、ベトナムと東ティモールでは新型コロナウイルス感染症準備プロジェクト、ジブチでは栄養とヘルスケアに関するプロジェクト、ルワンダ、

ザンビア、ラオス人民民主共和国、ベトナムでは公的情報、説明責任、市民参加の強化に関するプロジェクト、ニカラグアでは栄養に配慮した農業を支援するプロジェクトが承認されました。2021～22年度に実施された通常プログラムの被援助国実施型グラントと、同期間に承認されたグラントの一覧は Annex（英文）をご覧ください。第3章では、通常プログラム・グラントの実施状況についてもテーマ別に説明しています。

## 2.5 承認されたシード基金グラント

JSDF シード基金プログラムはステークホルダー、特に草の根組織とのコンサルテーションに取り組む世界銀行グループのタスクチームにグラントを提供しています。最大7万5,000ドルの世界銀行実施型グラントを提供することで、タスクチームがJSDFの基準を満たす枠組みを構築し、プロジェクトを準備段階に進められるよう支援します。

JSDFはステークホルダーとの協議を促進することで、プロジェクトに対する関係者のオーナーシップを高め、プロジェクトの活動が受益者のニーズや脆弱性に即したものとなるよう支援しています。多くの場合、こうした受益者をつなぐためには辺境地域やアクセスの悪い場所を訪れ、社会から取り残されてきた人々に働きかける必要があります。JSDF シード基金グラントは、タスクチームがこうした人々に目を向けられるように、参加型アプローチを強化すると共に、より多くの情報に基づいて、こうした受益者に影響を与える活動に資金を投入できるよう支援しています。

プロジェクトの効果と持続可能性を確保するためには、プロジェクトの設計・準備段階から、現地のNGOをはじめとするコミュニティ組織と連携することが欠かせません。表2.5.1の通り、2021～22年度は3件のシード基金グラント（総額19万7,121ドル）が承認されました。

 **表 2.5.1**  
2021～22年度に承認されたシード・グラント

シード・グラント名	終了日	グラント総額 (ドル)
バンサモロ自治地域における和平構築のためのコミュニティ主導型開発アプローチの開発（フィリピン）	2022年 9月15日	55,698
生活手段の提供を通じた女性ヘルスワーカー・プログラムの持続可能性確保（ソマリア）	2021年 6月30日	69,952
女性が率いるコミュニティ・ヘルスワーカー組合の能力強化（ルワンダ）	2021年 2月28日	71,471
<b>合計</b>		<b>197,121</b>

出典：DFTPR

## 2.6 第5回アフリカ開発会議（TICAD V）

TICAD V 行動計画に基づき、世界銀行グループが運営する栄養スケールアップ運動（SUN）信託基金のプロジェクトと連携しながら、母子死亡率を下げ、栄養不良を改善するための技術協力を2,000万ドルが配分されました。JSDFのSUN対応枠の最後の2件のプロジェクトは、どちらも2021～22年度に完了しました。支援総額は570万ドル（世界銀行実施分と被援助国実施分の両方を含む）でした（表2.6.1参照）。詳細は第3章をご覧ください。

TICAD Vでは、元戦闘員がコミュニティや市民社会に円滑に復帰できるように、元戦闘員の就業を支援する研修やキャパシティ・ビルディングにも1,000万ドルが配分されました。この枠では、「コンゴ共和国：プール地方の持続可能な生活の質向上支援プロジェクト」（300万ドル）が2022年度に完了しました（表2.6.1参照）。同プロジェクトは、プール地方の対象コミュニティにおける生計手段へのアクセス向上を図るもので、1,920の受益世帯と9,600人の受益者に直接支援を提供しました。詳細は第3章をご覧ください。

 **表 2.6.1**  
報告対象期間に実行中だった TICAD V 栄養スケールアップ運動（SUN）  
プログラム枠の JSDF グラント

枠の種類	信託基金名	終了日	グラント総額 (ドル)
被援助国実施型	栄養価の高い農作物の栽培と小規模・零細農家の能力構築支援プロジェクト	2022年 2月22日	2,705,490
	セネガル JSDF 食料・栄養不足に対する強靱性構築	2021年 5月31日	2,591,204
世界銀行実施型	セネガル JSDF 世界銀行実施型食料・栄養不足に対する強靱性構築	2021年 5月31日	178,119
	栄養価の高い農作物の栽培と小規模・零細農家の能力構築支援	2022年 2月28日	261,114
<b>合計</b>			<b>5,735,927</b>

出典：DFTPR



## 表 2.6.2

### 報告対象期間に TICAD V で実行中だった元戦闘員の 社会復帰支援プログラム枠の JSDF グラント

枠の種類	信託基金名	終了日	グラント総額 (ドル)
被援助国実施型	コンゴ共和国：プール地方の持続可能な生活の質支援	2022年 2月28日	2,750,000
世界銀行実施型	コンゴ共和国：プール地方の持続可能な生活の質向上支援 プロジェクト	2022年 2月28日	250,000
<b>グラント合計</b>			<b>3,000,000</b>

出典：DFTPR

## 2.7 アフガニスタン特別枠グラント

特別グラント・プログラムは、自然災害や紛争後のニーズ等、緊急時の対応を目的としたもので、報告対象期間には1件の特別プログラム（社会サービス提供と生産的インフラ・プロジェクトの推進、コミュニティによる実行管理の促進、コミュニティ・ガバナンスの指導により、アフガニスタンの復興を支援しコミュニティ・レベルの政府の基盤を構築することを目的としたアフガニスタン特別枠）が実施されました。2017年度は「アフガニスタン女性の経済的エンパワーメント」（274万ドル）、2018年度は「アフガニスタン戦略的穀物備蓄」（1,024万ドル）に対するグラントが承認され、2021年度も実行中でした。前者のプロジェクトは高い成果を上げ、2021年6月に無事終了しましたが、後者のプロジェクトは2020年8月に中止されました。政府がコロナ危機に対応するために支出の優先順位を見直し、それを受けて世界銀行が融資ポートフォリオを調整したためです（表 2.7.1 参照）。その後、特別プログラムは段階的に終了し、現在、新規グラントは受け付けていません。



## 表 2.7.1

### 報告対象期間に実行中だったアフガニスタン特別枠の JSDF グラント

枠の種類	信託基金名	終了日	グラント総額 (ドル)
被援助国実施型	アフガニスタン女性の経済的エンパワーメント	2021年 6月30日	258,736
	アフガニスタン戦略的穀物備蓄プロジェクト (SGR) － 中止	2020年 9月14日	[0 : JSDF に返還]
世界銀行実施型	アフガニスタン女性の経済的エンパワーメント	2021年 6月30日	2,739,685
	アフガニスタン戦略的穀物備蓄プロジェクト (SGR)	2020年 12月31日	188,429
<b>合計</b>			<b>3,186,850</b>

出典：DFTPR



## 3. プロジェクトの テーマ別概要

**本**章では、報告対象期間に実行中だった JSDF プロジェクトの一部を取り上げ、その実施状況と成果の概要を報告します。また、世界銀行が貸出、融資、グラントの実績を評価するために用いているアプローチを使って、実行中のグラントと最近終了したグラントの実績も報告します。報告内容は、プロジェクトチームが作成した標準的な実施報告書に基づいています。

プロジェクト開発目標 (PDO) の達成状況は、グラントの終了時にプロジェクト開発目標の各成果指標の目標値を実績と比較することで評価されます。タスクチームは、プロジェクトの設計・準備段階で実施機関と共に成果指標や目標値を設定しますが、プロジェクトの開始後に現場で浮上した開発課題を踏まえて、実施期間中（多くは中間審査の際）に調整又は修正を加えることもあります。

タスクチームの仕事はグラントの実施状況を監督することです。その一環として、タスクチーム・リーダー (TTL) とチームはプロジェクト開発目標の全体的な達成状況や進捗状況を評価しています。評価結果は実施状況報告書 (ISR) にまとめられ、世界銀行グループのマネジメントに正式に報告されます。ISR を利用した報告は、世界銀行グループの貸出やグラント・プロジェクトでも行われているものです。TTL とそのチームはプロジェクト開発目標の達成状況に加えて、実施のペースや質についても「極めて満足」、「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」、「極めて不満」の6段階で評価しています。

プロジェクトが終了すると、タスクチームは実施完了結果報告書 (ICR) を作成します。これは様々な基準に基づいてプロジェクトのパフォーマンスを評価するものです。プロジェクトの総合的な成果と世界銀行のパフォーマンスは「極めて満足 (highly satisfactory)」から「極めて不満 (highly unsatisfactory)」までの6段階、その他の項目 (妥当性、効果性、効率性等) は「ほぼ無し (negligible)」、「低 (modest)」、「中 (substantial)」、「高 (high)」の4段階で評価されます。



### 通常プログラム・グラント

注：通常プログラム・グラントは、複数のテーマ別分野にまたがっていることが珍しくありません。その場合は、最も関連性の高いテーマ別分野に一度だけ掲載しています。

## 3.1 生活の質の向上

JSDF のテーマ別分野である「生活の質の向上」は、以下の持続可能な開発目標（SDGs）と連動しています。：

目標 1：あらゆる形態の貧困を終わらせる。

目標 8：包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。

この分野の JSDF グラントは、最貧困層・最脆弱層のための雇用機会を生み出すことで、人々が持続可能な生活へ移行し、経済的安定を手に入れられるよう支援する他、農村部や都市部の最貧困層や長く排除されてきた人々が仕事に就き収入を得るための取組みにも活用されています。支援の対象となるのは、女性や危機的状況にある若者、少数民族、元戦闘員、貧しい農家、漁民、紛争の終了を待って帰還した世帯です。こうした支援は、特定のグループを対象に試験的な取組みを実施する形で提供される場合と、他の途上国で効果を上げた支援策を応用する場合とがあります。このテーマ別分野には、零細企業開発や雇用促進、コミュニティ・ベースの取組み、スキル・能力強化、需要主導型の生計支援策が含まれます。



## 若年層コミュニティの生活の質 支援プロジェクト – キルギス共和国

グラント額：273 万ドル

開発目標：20 の対象コミュニティにおいて、革新的な生計手段の開発と推定 4,000 人の若い男女の雇用適性の強化を支援することにより、社会経済的機会と包摂を促進します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：若者の労働市場への参入準備

市場システムの供給側を支援するコンポーネントであり、若者が就職に必要な情報や技能を身につけられるよう支援しました。伝統的経済への参入を目指す若者と、デジタル経済への参入を目指す若者のために 2 種類のサブコンポーネントを用意し、若者が両方の経済に積極的に参加し、キャリアを積み、コミュニティの成長と発展に貢献できるように、参加型の評価と雇用関連の技能開発を通じて、若者のエンパワメントに取り組みました。

#### コンポーネント 2：若者のための市場機会の創出

コンポーネント 1 で実施した若者の技能開発を補完するコンポーネントです。需要側を支援し、若年労働者の就労機会を増やすために、伝統的なセクター、デジタル経済、電子サービスの分野で、若者を中心に据えたバリューチェーンや生計手段の改善機会の促進・強化等を行ったほか、対象地域の若者の主な就労先である農業セクターのバリューチェーン強化を図りました。また、新しい技術は対象地域の農業、サービス、工業分野の発展を支え、中小・零細企業（MSME）に競争優位をもたらすという認識に基づき、情報通信技術やデジタル経済に関する技能研修を受けた若者にも様々な機会を提供しました。

#### コンポーネント 3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

このコンポーネントでは、プロジェクトの進捗状況を把握し、より良い成果を上げるために、プロジェクトの管理、運営、モニタリング・評価（M&E）活動を支援しました。

## 実施中の変更

本プロジェクトの実施中に複数回にわたって大きな変更が加えられました。例えば 2022 年 7 月の再編では、終了日の延期、支出カテゴリー間での資金配分の変更、成果枠組みの見直しが行われました。また、起業家スキルと技術・職業教育訓練（TVET）の双方向ビデオモジュールの開発に関するサブ活動が中止されました。

## 成果の総合評価

本プロジェクトは引き続き、世界銀行、政府、国別パートナーシップ枠組み（CPF）が重視する開発課題と一致していたため、プロジェクト開発目標の妥当性は「高」と評価されました。複合目標やプロジェクト開発目標に関する指標は大部分が基準を上回っていたため、プロジェクトの効果性は「中」と評価され、効率性も「中」と評価されました。この評価に基づき、本プロジェクトの総合的な成果は「満足」と評価されました。

**本プロジェクトの支援により、対象地域の TVET センターが大幅に強化されたほか、教育機会が拡大され、カリキュラムの設計が改善されました。** 双方向学習やハイブリッド学習等の革新的な教授法も導入されました。ほとんどの回答者が本プロジェクトに参加したことにより、新しい革新的なツールやアプローチを学び、実践できたと回答しました。本プロジェクトは新たなアプローチとして「ピア・ツー・ピア・ラーニング」を採用し、様々な地域やコミュニティ利益団体、企業、新興企業の人々が学習ツアーや合同ワークショップに参加することで、ベストプラクティスを共有し、新たな知識を生み出す貴重な機会を利用できるよう支援しました。

**本プロジェクトは南部州の女性、特に若い女性の発言権と決定権に良い影響を与えました。** 対象グループの女性たちは教育を受けておらず、就労経験や起業スキルもなく、事業に必要な資本や融資へのアクセスも限られるなど、サービスやインフラ、所得創出機会を十分に利用できない状況にありました。この問題に対応するため、スタッフの能力やジェンダー平等問題に対する意識の向上、女性や女児のニーズに配慮したバリューチェーンや雇用につながる技能の開発、コミュニティの参加促進イベントにおけるジェンダー目標の設定等が行われました。ジェンダー行動計画が策定され、プロジェクトの実施期間を通じて厳格に遵守されました。行動計画では、プロジェクトの全ての支援について、受益者の 50%を女性とすることが重要目標として掲げられました。最重要目標は、若い女性の雇用適性と起業家スキルを強化し、ジェンダー平等を促進することです。キー・インフォーマント・インタビューやフォーカス・グループの議論に参加した女性たちからは、プロジェクトは貴重なエンパワーメントの機会を女性たちに提供しただけでなく、共同体意識の醸成や友人・仲間とのネットワークの拡大、自信の強化、恐怖心の克服、経済的自立、家族への経済的貢献に役立ったという声も聞かれました。





## 紛争の影響を受けたイラクの若者の包摂促進

グラント額：275 万ドル

開発目標：紛争の影響を受けたイラクの若者（15～29歳）3,000人以上を対象に、起業や若者主導のコミュニティ開発活動への参加を促進し、社会的・経済的包摂を促進します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：若者主導のコミュニティ開発、和平構築、マイクロ起業

コンポーネント1ではまず、迅速なニーズ評価とマッピングが実施されました。目的は、活動対象とするバグダッドの自治体・地域の決定です。コンポーネント1には3つのサブコンポーネントがありました。(1) ソフトスキル研修と心理社会的支援は、プロジェクト参加者が全員、最初に参加するもので、紛争の影響を受けた3,000人以上の若者にソフトスキル研修を実施し、必要な場合は心理社会的支援モジュールも提供しました。本プロジェクトの目的は、各種階層に所属する紛争の影響を受けた若者に、それぞれのニーズに合った研修を提供することです。従来の雇用適性的を絞った研修とは対照的に、感情に適切に対処するスキル（ストレス、感情、気分の管理）や社会的能力、対人スキル等を伸ばす研修を通じて、活動の和平構築的な側面も強化されました。(2) 若者主導のコミュニティ開発と和平構築は、紛争の影響を受けた2,000人以上の若者が若者主導のコミュニティ開発活動に参加できるようにするものです。参加資格は、迅速なニーズ評価の結果に従い、事前にソフトスキル研修に参加していること、そして特定のコミュニティに居住していることでした。(3) マイクロ起業は、紛争の影響を受けた1,000人以上の若者に緊急支援を提供し、独自の小規模事業を立ち上げられるようにするものでした。実施機関である青少年・スポーツ省は、競争入札を通じて、非営利組織（NGO）に事業開発研修やグラント後の指導を委託しました。また、一部の受益者には事業開発グラントを提供しました。

#### コンポーネント2：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

プロジェクト管理チームの仕事はプロジェクト全体の調整と実施であり、プロジェクトの調整、受益者へのアウトリーチ、調達、財務管理、セーフガード、コミュニケーションと知識の管理、現地NGOとサービス提供者の選定と監督、モニタリング・評価等を実施し、その大部分は実施機関が遂行しました。プロジェクト管理チームは、NGOやサービス提供者と契約して、特定のプロジェクト活動を実施したほか、知識の普及を目的とした活動を定期的に行いました。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、実施段階の初期に、大臣の交代に起因する遅れが生じました。また、新しいプロジェクト管理チームは国際的なドナー融資プロジェクトの経験が乏しかったため、キャパシティ・ビルディングを実施する必要もありました。実施機関である NGO も類似プロジェクトの経験が少なかつたため、調達や支払いに時間がかかり、世界銀行がかなりの支援を提供しました。コロナ危機が始まると、プロジェクトはさらに遅れました。感染の拡大を防ぐため、一部の活動はバーチャル形式に変更され、タスクチーム・リーダー（TTL）も頻繁に入れ替わりました。最終的にプロジェクトに関与した TTL は 4 人に上りました。支援を受けるためには指定銀行に口座を開設しなければならないなど、財務管理上の要件もプロジェクトにさらなる遅れをもたらしました。その結果、プロジェクトは 2 度にわたって再編されました。**初回の再編**では、(1) プロジェクト終了日の変更（2020 年 5 月 28 日から 2021 年 11 月 30 日へ 18 カ月延長）、(2) マイクロ起業を支援するため、グラントの提供前と起業サイクルの事業開発支援フェーズに（研修の代わりとして）コーチングとメンタリング活動を導入、(3) プロジェクト開発目標のレベルと中間指標の見直し、(4) 支出カテゴリー間での再配分等が行われました。プロジェクトの開発目標と範囲は変更されていません。**2 回目の再編**では、プロジェクト終了日が 2021 年 11 月 30 日から 2022 年 6 月 30 日へと、さらに 7 カ月延長されました。目的は、実施機関がプロジェクトの対象となる若者にマイクロ起業関連の活動を計画通りに確実に提供できるようにすること、若者主導のコミュニティ・イニシアティブを新たなプロジェクト終了日まで完了することでした。

## 成果の総合評価

**プロジェクト受益者の能力が大幅に強化されました。**これは受益者が新しい関連コンテンツに触れる機会が増えたことだけでなく、受益者が参加した研修に有益なライフスキルが豊富に含まれていたことから明らかです。こうしたライフスキルは、紛争の影響を受け、社会から疎外されている若者が、生産的で社会に不可欠な一員としてコミュニティに参加できるようにし、コミュニティの社会的結束を高める可能性があります。

**プロジェクトの関係者や受益者の間では、ソフトスキルや心理社会的支援が良い影響をもたらしたことは高く評価されたものの、コミュニティ・イニシアティブやマイクロ起業は様々な困難に直面しました。**第一に、大臣の交代による遅れ、プロジェクト管理チームの能力不足、コロナ危機がもたらした制約により、これらの活動の実施時期はプロジェクトの後半に延期されました。また、実施機関である NGO には国際ドナー・プログラムの経験がほとんどなかったため、支払いやグラントの実行にも時間がかかりました。こうした遅れにより、グラントの実行が遅れ、完了は終了日の直前となりました。



## ガーナ – 都市周辺部の市販野菜 バリューチェーン・プロジェクト

グラント額：285 万ドル

開発目標：ガーナの都市周辺コミュニティにおいて、野菜農家の生産性及び市場アクセスを改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：農民管理型灌漑システムの開発

コンポーネント1の目的は、対象となる農村の小規模河川灌漑システムを改良し、資源の乏しい農家を支援することでした。対象となる農村は周囲を河川で囲まれており、灌漑農業を広く展開できる可能性がありました。本コンポーネントは、野菜の生産量拡大と対象農家のエンパワーメントを通じて農家の所得を増やすために、(1) 小規模灌漑インフラの設計と導入、(2) 生産者組合・水利用者組合の設立を支援し、公平な配水、灌漑インフラの管理、水利用者が灌漑システムを管理するためのキャパシティ・ビルディングに貢献しました。

#### コンポーネント2：農家の能力開発及び生産性向上支援

コンポーネント2では、現代的な改良型技術の導入を支援しました。具体的には、(1) 農民の能力を強化し、生産性と生産量の向上につながる近代的な野菜生産技術と収穫後処理技術を導入するための集中プログラムの設計と実施、(2) 受益コミュニティで対象農業技術普及員の能力を高め、個々人の専門知識を強化することによる、普及活動等の支援サービスの効果的な提供、(3) 対象受益者にスターターキット（改良型の種子、肥料、除草剤等）をサブグラントとして提供することによる、技術の採用と生産性向上の促進です。受益者には1人あたり約70ドル相当のスターターキットが提供されました。この資金は、農民組織が管理するリボルビング・ファンドに返済されます。農家の能力育成としては、ワークショップ型研修と現場ベースの研修（ファーマー・フィールド・スクール等）の両方が行われました。研修の主なテーマは、生産性向上技術、化学肥料や農薬の適切な使用、アグリビジネスの経営、農場の管理と記録保存、会計・財務管理、収穫後処理でした。農家研修プログラムには、ガーナの農業生産工程管理（GAP）のテーマも部分的に取り入れられました。

### コンポーネント 3：収穫後処理と市場アクセスの改善

コンポーネント 3 の目的は、生産者組織の生産能力と競争力を高め、市場とのつながりを強化することで、野菜のバリューチェーンを育て、調整することでした。本グラントは、野菜農家が農業起業家と生産的なパートナーシップを結ぶ助けとなったほか、2 つの共同農業倉庫システムの設立と運営を支援しました。このシステムは、市場アクセスの改善と価格の安定に貢献すると期待されています。倉庫には冷蔵・冷凍輸送システムが導入され、生産された農産物を高価値市場に供給するための重要なオフテイク施設となりました。農家グループと倉庫センター間の、複数年の供給・購入契約の締結を奨励したほか、農家グループの能力を強化し、システムの基本的な考え方や指針に対する理解を深め、遵守できるようにしました。本プロジェクトでは 2 つの加工工場の建設が義務付けられており、1 つはアクラ平原に建設されてグレーター・アクラ、ボルタ、東部地域の受益者を支援し、もう 1 つはアノエ（シャマ・アハント自治体）に建設されて西部地域の受益者を支援しています。

### コンポーネント 4：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の管理

コンポーネント 4 では、プロジェクトがプロジェクト運営マニュアルを遵守していることを確認するためのすべての活動を支援しました。また、政府がプロジェクトの実施やモニタリング・評価に必要な費用の増加に対応できるよう支援しました。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、様々な変化に対応するためにレベル 2 の再編が行われました。主な内容は、コンポーネントと活動の見直し、コンポーネント間、支出カテゴリ間での資金の再配分、プロジェクトの実施場所の変更、プロジェクトの延長（終了日を 2020 年 6 月 30 日から 2021 年 6 月 30 日に 12 カ月間延長）です。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標の妥当性は「高」と評価され、目標の大部分が達成されました。プロジェクト終了時の収益率は良好でしたが、実施面では大幅な遅れが生じました。これを踏まえて、本プロジェクト総合的な成果は「やや満足」との評価にとどまりました。



## アルメニア – 社会的包摂と自立活動の促進

グラント額：270 万ドル

開発目標：アルメニア国内の対象地域において、社会扶助・サービスへのアクセスを向上させると共に、約1万1,000人の最脆弱層に対し、自営業に必要な支援を提供します。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：パイロット・カウンセリング・プログラムの開発と実施

コンポーネント1の目的は、アルメニアが社会的保護・雇用制度におけるサービスと給付の関係を強化するために進めている体系的な社会的事例管理アプローチの設計・導入を支援することにあります。コンポーネント1には2つの段階があり、第1段階では、社会的事例管理の支援・運用方法を定めている入手可能な文書の修正と改善を進めます。具体的には、(1) 社会的事例管理の支援方法に関する文書、(2) ソーシャルワーカーの業務マニュアル、(3) ソーシャルワーカー用の各種ツール、(4) 主要サービス・プロバイダーへの紹介手順、(5) アウトリーチ戦略です。第2段階では、所定の方法と運用マニュアルに基づき、対象地域で社会的事例管理に関する支援を提供している州及びコミュニティで200人のソーシャルワーカーを対象に研修等を実施しました。具体的には、(1) 社会的事例管理の方法とマニュアルやツールの使い方に関するソーシャルワーカー向け研修資料の作成、(2) 指導者向け研修の実施(1回)、(3) 対象地域の州及びコミュニティのソーシャルワーカー約200人を対象としたワークショップ研修の実施、(4) 社会的事例管理者の日常業務を支援するための実地研修等です。

#### コンポーネント2：キャパシティ・ビルディングと起業支援

コンポーネント2の目的は、事業研修や助言サービス、少額サブグラントの提供で構成されるプログラムを試験的に実施し、起業と事業活動を促進することにより、本プロジェクトの対象世帯の所得、ひいては生活の質の向上を図ることにあります。本コンポーネントは2つの主要なサブコンポーネント(キャパシティ・ビルディングと、サブグラントの形での少額のビジネス・グラント)で構成されています。これらのサブグラントを通じて、本プロジェクトが支援する小規模・零細事業イニシアティブの主な分野は、(1) 農業(生産)、(2) 農業(サービス)、(3) 食品・食品以外の商品の生産・加工、(4) レクリエーション・宿泊・飲食サービス、(5) 芸術・文化・娯楽、(6) その他の形の所得創出、(7) 貿易(店舗経営や移動販売に関する所得創出活動)です。

### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント3は(1)プロジェクトの管理と運営、(2)モニタリング・評価、(3)知識の普及の3つのサブコンポーネントで構成されています。サブコンポーネント(1)の目的は、グラント活動の適切な実施とモニタリングを確実に進めることです。また、プロジェクトの立ち上げを支援し、中間審査やプロジェクト実施完了結果報告書の作成に必要な情報も提供します。サブコンポーネント(2)では、プロジェクトの実績・成果を評価するための様々なモニタリング・評価活動を実施します。サブコンポーネント(3)の主な活動は、ソーシャルワーカー向けのワークショップ、起業プログラムの成果の評価結果、社会的事例管理のためのカウンセリング・プログラムの開発と課題に関する知見を共有するための最終イベントです。

### 現在の状況

本プロジェクト(P165314)は2020年4月から実施されており、グラントの全額が実行されました。前回の実施状況報告書(ISR)では、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「満足」と評価されました。本プロジェクトは2023年6月に終了予定です。



## ホンジュラス ラ・モスキティアの先住民族 ミスキート族の生活の質向上

グラント額：270 万ドル

**開発目標：**ホンジュラスの対象地域において、社会経済的な生産活動を促進し、先住民族であるミスキート族の生活の質を向上させます。具体的には、ミスキート族のコミュニティと協力することにより、4つの対象地域で暮らす1,800人以上のミスキート族を支援します。

**状況：**実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：コミュニティへの投資

コンポーネント1では、コミュニティ・ベースのサブプロジェクトを支援します。想定される受益者は、あらかじめ選択した地域（カタイナスタ、アウヒヤ、ヤリ、フィンズモス）で暮らす、ミスキート族を先祖に持つ男女の小規模生産農家の世帯主1,800人です。サブプロジェクトの一環として、受益者には約1ヘクタールの土地が提供されます。本プロジェクトは、受益者が所定の手続きに従って、サブプロジェクトの提案書と申請書を作成できるよう支援します。受益者1人あたりの想定コストは約1,000ドルです。サブプロジェクトは、本プロジェクトの資金（80%）と、サブプロジェクトの受益者からの現物出資（20%）を基に進められます。

#### コンポーネント2：適格受益者の技術的・組織的能力の構築

コンポーネント2の目的は、コミュニティ主導型開発のアプローチを用いて、受益者の能力を強化することです。そのための施策として、現地コミュニティの「能力」を強化し、生活の質を向上させるための技術的、経営的な解決策を自ら開発、実施、維持できるよう支援しています。受益者の能力は、サブプロジェクトの実施に必要なスキルや能力の習得を支援する研修や技術協力を通じて強化されます。各セクター（農業、漁業、家畜、森林農業等）や受託者・経営者の能力に関する技術研修は、その一例です。

#### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント3は、ホンジュラスのラ・モスキティア地方の町、プエルト・レンピラにプロジェクト実施ユニットを設立し、プロジェクトを管理・運営するための活動を支援するものです。実施機関は地域NGOのAsociación Coordinadora Indígena y Campesina de Agroforestería Comunitaria Centroamericanaで、このNGOの事務局長がプロジェクトを監督します。本

プロジェクトは毎年、独立した外部監査人による監査を受けます。モニタリング・評価活動も支援の対象です。対象となる活動は、(1) プログラムの日常的なモニタリングに受益者を巻き込む参加型モニタリング戦略、強固な参加型モニタリング・評価システムの構築（システムの基盤は JSDF シード・グラントを用いて整備し、データは毎月送信）、(2) プロジェクトの準備期間に実施されたモニタリング・評価の準備度評価の結果をもとに指標を検証するベースライン調査、(3) 教訓を評価し、実施計画に必要な修正を加えるための中間審査、(4) ベースライン調査に関連して、プロジェクトの累積成果を評価するために、実施完了結果報告書の形でプロジェクト終了時に実施される審査です。実施機関は、詳細なモニタリング・評価システムを使って指標を適切に追跡し、データの収集・報告責任を明確化します。コンポーネント 3 には、プロジェクトの成果を定期的に文書化し、共有するプロセスも含まれます。サブプロジェクトの協議結果や実施結果は、ワークショップや出版物等、様々な手段を用いて、可能な場合には二カ国語（スペイン語と母国語）で提供され、教訓と合わせて広く共有されます。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、2023 年 5 月にレベル 2 の再編が行われました。目的は、支出カテゴリ間での資金の再配分です。

## 現在の状況

本プロジェクト（P167767）は 2019 年 11 月から実施されており、グラントの実行率は 87%です。前回の ISR では、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「満足」と評価されました。本プロジェクトは 2024 年 2 月に終了予定です。





## モロッコーコミュニティ主導型の農村道路保守

グラント額：285 万ドル

**開発目標：**不利な立場にある農村部住民に生活の質を高める機会を提供すると共に、プロジェクト地域の対象農村道路の利用可能性と有用性を維持します。

**状況：**実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：サブプロジェクト

(1) 労働集約的な道路保守サブプロジェクト：協同組合や零細企業がプロジェクト地域で実施する、50 件の労働集約的な農村道路保守サブプロジェクトを支援するサブコンポーネントです。サブプロジェクトの主な内容は、道路と道路関連インフラの予防保守、具体的には、がれきの撤去、側溝の清掃、植生の管理、小規模な路面整備です。現地労働者の雇用機会や資源の利用機会を最大化するため、全ての工事は工具や防護具、少量の工事用建設資材を用いて手作業で行われます。選ばれた零細企業と協同組合は、原則として、受益コミュニティの不利な立場にある農村の住民を労働者として雇用するか、起業家として招き入れる必要があります。

(2) サブプロジェクトの技術検査：品質管理のために第三者が現地で実施する、道路保守サブプロジェクトの技術検査に関するコンサルティング・サービスを支援するサブコンポーネントです。

(3) 補完的なサブプロジェクト：対象地域において、マッチング・ファンドの仕組みを利用して、木工や洋裁、工芸、養蜂、交通サービス等の所得創出活動を中心に、約 50 件のサブプロジェクトを支援します。受益者は、短期的なキャッシュフローを生み出す可能性のある所得創出活動を開始又は拡大する資金として、少額の融資（サブプロジェクトあたり平均 6,000 ドル）を受け取ります。これらのサブプロジェクトは、農村道路保守サブプロジェクトを補完するもので、コミュニティに採算を維持できるだけの収益をもたらす見込みです。これらのサブプロジェクトはバリューチェーン、特に市場とのつながり全般において、農村道路アクセスの改善から継続的に恩恵を受けています。中期的には、これらのサブプロジェクトは 500 人分の直接雇用、間接雇用、誘発雇用を持続可能な形で生み出す予定です。

#### コンポーネント2：キャパシティ・ビルディング

キャパシティ・ビルディングは複数のサブコンポーネントで構成されています。(1) 技術研修サブコンポーネントは、コンサルティング・サービスの提供を通じて、キャパシティ・ビルディング活動を支援するもので、実施機関の職員や地域レベル、コミュニティ・レベルのステークホルダー（50 件

のサブプロジェクト全体で合計約 150 人) にハンズオン型研修を提供することで、プロジェクトの保守活動を適切に監督・支援できるようにします。研修の有効性を確保するため、参加者は所定の基準に基づいて選定されます。(2) 起業研修サブコンポーネントは、プロジェクトが支援する活動の持続可能性を高めるために、ハンズオン型研修の提供という形で、主要な受益者のキャパシティ・ビルディングを展開します。研修には既存、新規、又は今後設立される零細企業や共同組合から 50 人が参加し、(a) 零細企業・協同組合の適切な形成と組織化、(b) 起業家的スキル、(c) 金融アクセス等のテーマについて学ぶ予定です。

### コンポーネント 3：プロジェクトの管理・運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 3 は複数のサブコンポーネントで構成されています。(1) プログラムの管理・運営は、物品、コンサルティング、コンサルティング以外のサービスの提供を通じて、(a) プロジェクト管理費用（プロジェクト運営マニュアル（POM）に定められた基準に従って、プロジェクト実施機関がプロジェクトを立ち上げ、スタッフを採用するための費用）、(b) プロジェクト監査費用、(c) プロジェクト運営費用を支援します。(2) モニタリング・評価は、プロジェクトのモニタリング・評価活動に必要な資金を提供します。(3) 知識の普及は、知識の普及活動に資金を提供します。本プロジェクトの教訓をワークショップの形で中央政府、地域政府、地方自治体、地域社会、市民社会と共有することで、イニシアティブの認知度を高め、このコンセプトの再現可能性と拡張性を高めます。

## 実施中の変更

プロジェクトの初期には遅れが見られましたが、現在はおおむね解消されています。遅れの原因は、(1) 初期に関係者、特に現地の人々に求められる知識・能力が大きかったこと、(2) サブプロジェクトの革新性と関係者の多様性（地方レベルを含む）、(3) 近年の急速な地域化の進展と、それに起因する現地レベルでの管理・運營業務の大幅な増加、(4) コロナ危機がもたらした運営・物流上の制約でした。このため、本プロジェクトでは中央政府からの要請に基づき、2023 年 6 月に再編が行われました。残りの活動を完了し、プロジェクト開発目標を達成するために、プロジェクトの終了日は 2023 年 12 月 31 日から 2025 年 6 月 30 日に 18 カ月間延長されました。プロジェクト終了日の延長提案を受けて、プロジェクトの実施スケジュールやグラントの実行計画も変更されました。

## 現在の状況

本プロジェクト（P165411）は 2019 年 5 月から実施されており、グラントの実行率は 54%です。前回の ISR では、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「やや満足」と評価されました。プロジェクトは 2025 年 6 月に終了予定です。



## コソボ – 若者のための自治体プロジェクト

グラント額：278 万ドル

**開発目標：**若者主導の市民活動と技能育成活動を通じて、コソボの脆弱なコミュニティで、社会から疎外されている 3,000 人以上の若者の社会・経済的包摂を促進します。

**状況：**実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：若者主導のコミュニティ開発イニシアティブへのサブグラント

コンポーネント 1 では、若者の包摂と生活の質向上をコミュニティ・レベルで支援する若者主導のイニシアティブ（1 サイクル 100 件、合計 200 件）に対し、サブグラントを 2 ラウンドに分けて提供します。

#### コンポーネント 2：若手ステークホルダー研修

コンポーネント 2 は、コンポーネント 1 で言及したサブグラントに参加する 3,000 人の若者の動員と研修を支援するもので、例えば就労体験の機会を 500 人の若者に提供します。

#### コンポーネント 3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 3 は、プロジェクトの進捗状況を把握し、より良い成果を上げるために、プロジェクトの管理、運営、モニタリング・評価活動を支援します。プロジェクトの調整、計画、モニタリング、報告機能は現在、適切に機能しています。ステークホルダーが現場のデータをリアルタイムで閲覧・入力できるように、プロジェクト専用のモニタリング情報システム（MIS）が構築され、プロジェクトの方向性の修正や柔軟な管理が可能となりました。

### 実施中の変更

2023 年 1 月にレベル 2 の再編が承認され、プロジェクト終了日を 2023 年 1 月 30 日から 2024 年 7 月 31 日まで 18 カ月間延長すること、コンポーネントの費用を見直し、支出カテゴリ間で再配分することが決定しました。若者向け研修の第 2 ラウンド、サブグラントとコミュニティ・イニシアティブの第 1・2 ラウンド等、本プロジェクトで計画されていた全ての活動を適切な支援と監督の下で完了するためには、終了日の延長は不可欠でした。この再編の背景には、コロナ危機による実施の遅れと調達活動への影響、3 度の政権交代に起因する参加自治体の確認プロセスの長期化、協調融資に必要な自治体の事務手続きの煩雑さがあります。

## 現在の状況

本プロジェクト（P165485）は2019年9月から実施されており、グラントの実行率は39%です。前回のISRでは、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「やや満足」と評価されました。プロジェクトは2024年7月に終了予定です。



## ヨルダン – 脆弱な若者のための総合的 社会サービス

グラント額：280 万ドル

開発目標：若者に対するサービスの拡大、同サービスに関する意思決定への若者の参加促進、現地の NGO / サービス提供者及びコミュニティのエンパワーメントにより、脆弱な若者の生活の質を改善します。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：若者に対するサービスを提供している市民社会パートナーのキャパシティ・ビルディング

コンポーネント 1 は、若者に対するサービスを提供している市民社会パートナーのキャパシティ・ビルディングを支援します。その手段として、NGO やコミュニティ組織（CBO）の能力を強化し、ワークショップ等の学習イベントや交流を通じて、若者にサービスを効果的に提供できるようにします。

#### コンポーネント 2：若者のエンパワーメントの支援

コンポーネント 2 は、CBO やサービス提供者に少額のグラント（4 万ドル以下）を提供することにより、若者のエンパワーメントを支援します。こうした支援を通じて、市民参加、若者の育成、行動の変化、社会サービスの改善、雇用適性の強化を促進し、若者のエンパワーメントと脆弱な若者の生活向上を図ります。

#### コンポーネント 3：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 3 は、プロジェクトの管理面、具体的には (1) 実施体制の構築、(2) 継続的なモニタリング支援、(3) 参加型の評価、(4) 知識の共有、(5) 最終報告書（本プロジェクトのアプローチを全国に展開するための教訓、ベストプラクティス、ガイダンスを含む）の作成を支援します。

### 実施中の変更

本プロジェクトは **3 度にわたって再編**が行われました。2021 年 11 月に行われた最初の再編では、サブグラントの第 2 サイクルや、若者向けのホスピタリティ研修等、残っている活動を完了できるようにグラントの終了日が 2021 年 11 月 30 日から 2023 年 5 月 31 日に延長されました。研修が遅れた原因としては、(1) コロナ関連の制約や影響によって実施が遅れたこと、(2) プロジェクト管理ユニットの職員の能力不足により、現地で定期的な監督ができなかったこと、(3) プロジェクト管理ユニットの機能が青年省から計画・国際協力省に移管され、説明責任や支払い手続きの変更

に時間がかかったことが挙げられます。2度目の再編は2023年2月に行われ、備品や研修関連の支援契約の不足分を補うために、既存のグラント・カテゴリー間で資金が再配分されました。3度目の再編は2023年5月に行われ、(a) グラントの終了日をさらに6カ月延長、(b) グラントの実行予定とプロジェクトの実施スケジュールの調整、(c) 成果指標の目標終了日の調整が実施されました。

## 現在の状況

本プロジェクト（P163241）は2017年6月から実施されており、グラントの実行率は77%です。前回のISRでは、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「やや満足」と評価されました。プロジェクトは2023年11月に終了予定です。

## 3.2 栄養改善と早期幼児開発

栄養不良は世界で最も深刻な開発課題の1つです。国家の生産性や経済成長が損なわれるという点で、栄養不良がもたらす経済コストは非常に大きく、一部の国では毎年、国内総生産（GDP）の2～3%、アフリカやアジアでは最大11%に達します。栄養不良の影響を最も強く受けるのは貧困層、女性、子供です。JSDF グラントは5歳未満児（貧しい農村地域の児童を含む）、脆弱な若い女性、食料不足に直面している世帯の慢性的な栄養不良の緩和に取り組んでいます。

このテーマ別分野のグラントは、栄養に焦点を合わせた直接的支援に加え、より広範なマルチセクター・アプローチも導入しています。栄養分野の支援は、家族内の栄養習慣の改善を図るもので、各世帯が購入又は自家生産によって食料や微量栄養素を補完できるよう支援します。より広範なマルチセクター・アプローチでは、完全母乳保育や衛生習慣の改善等、栄養状態に大きな影響を与える世帯の行動を促進します。貧困世帯の幼児は、認知・非認知能力の面で富裕世帯の幼児と顕著な差が付く場合があります。

潜在能力を発揮できないことは、本人はもちろん社会全体にとって大きな損失です。JSDF は、極度の貧困や格差の削減、生産性の向上につながり得る早期幼児教育（ECCD）を促進すると共に、センター又は自宅で実施できる早期刺激／学習パッケージの開発、コミュニティ組織と連携した育児支援プログラム、条件付き現金給付、乳幼児のいる家族を対象とした啓蒙キャンペーンを含むECCD プロジェクトを、グラントを通じて支援しています。

このテーマ別分野のグラントは、長期的にはSDGsの目標1と世界銀行の2大目標である「極度の貧困撲滅と繁栄の共有促進」に貢献します。



## ブルンジ – 母子の栄養強化プロジェクト

グラント額：272 万ドル

**開発目標：**ブルンジのジオフィとマカンバの対象グループが微量栄養素を豊富に含んだ食料の生産と消費を拡大できるよう支援します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：栄養習慣改善のためのコミュニティ動員

コンポーネント 1 の目的は、世帯グループを通じたコミュニティ主導の栄養活動、生後 0 ～ 23 カ月の乳幼児を対象とした発育のモニタリングと促進、栄養不良の子供を対象とした「ポジティブ・デビアンス / ハース (PDH)」の支援です。コミュニティ主導の栄養活動は、世帯グループのリーダー、コミュニティ組織、コミュニティ・ヘルスワーカー、PDH ボランティアのネットワークによって実施されました。

#### コンポーネント 2：微量栄養素を豊富に含んだ食料の生産拡大

コンポーネント 2 の目的は、農業普及員や農業組合を、コンポーネント 1 で取り上げた世帯グループとつなぎ、微量栄養素を豊富に含んだ食料、特にバイオ強化作物（鉄分の豊富な豆等）の通年生産と消費を拡大することでした。世帯グループは農業普及員から研修を受け、世帯グループのリーダーは小規模菜園を活用して自家用の果物や野菜の生産を拡大しました。世帯グループのメンバーは農業・栄養インプットのパッケージを受け取り、村落貯蓄貸付組合に加入しました。これにより、栄養価の高い作物の生産を阻んでいた経済的障壁が軽減されました。

#### コンポーネント 3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 3 は、モニタリング・評価、調整と政策アドボカシー、プロジェクト管理を費用面で支援しました。

### 実施中の変更

本プロジェクトは 2020 年 2 月に再編され、終了日の延長と成果枠組みの変更が行われました。当初のプロジェクト終了日は 2020 年 2 月 15 日でしたが、開始時の遅れを考慮して、世界銀行は終了日を 6 カ月間延長し、成果枠組みを変更するよう求める要請を承認しました。その結果、プロジェクトは活動を完了し、活動の影響を測定するためのエンドライン調査を実施することができました。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標に関する指標のうち、2つの指標は目標を達成、1つの指標は部分的に達成（目標の62%）しました。また、10の中間指標のうち、7つは目標を達成又は上回り、2つはほぼ達成（目標の80%超）、1つは部分的に達成（目標の70%）しました。結果として、プロジェクト開発目標の全体的な達成度は「中」と評価されました。達成度は、プロジェクト開発目標の2つの側面、すなわち（1）微量栄養素の豊富な食料の生産拡大、（2）微量栄養素の豊富な食料の消費拡大の両面から評価されました。プロジェクトの妥当性は「高」、効果性は「中」と評価され、総合的な成果は「満足」と評価されました。





## ベトナム – 北部山岳地帯の総合的 小児栄養改善プロジェクト

グラント額：282 万ドル

開発目標：子供の食習慣や母子保健の改善、妊婦と乳幼児の栄養源の多様化を通じて、対象村落の5歳未満児の栄養状態を改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：食料・栄養安全保障の改善

コンポーネント1の目的は、対象村落の子供、母親、妊婦の食料・栄養の安全保障を強化することでした。本コンポーネントの主な活動は、(1) 多くの現金を必要としない農業技術の導入と、天然資源や現地で調達可能な資源の利用による生産コストの削減を通じた農作物の多様化、(2) 栄養価の高い新規作物（豆類等）や適切な農法の導入、(3) 対象村落で容易に入手できる、栄養化の高い天然原料の利用促進です。これらの活動を実施するために、(a) 地元の品種を使用した、多くの現金を必要としない有機農法の実証とハンズオン型研修のための技術協力、女性が栄養価の高い野菜や家畜（家禽等）を幅広く栽培・飼育するための小規模農園、現地で調達可能な食料や原料の栄養価の科学的検証、(b) 研修と意識改革のためのワークショップ、(c) 日当・出張費、備品、実証用資材等の経常費用を支援しました。

#### コンポーネント2：コミュニティ・ベースの栄養ケアと栄養習慣の強化

コンポーネント2の目的は、少数民族の母親ネットワーク（母親グループと女性グループ）を構築し、参加者同士の対話を促進することで、少数民族の母親の間で信じられてきた迷信を克服することでした。本コンポーネントの主な活動は、(1) 母乳保育、乳幼児の食事習慣等に関するグループ／ピア・カウンセリング、(2) コミュニティ成長モニタリングの促進、(3) 母親ネットワークの支援を通じた栄養不良の子供のためのリハビリテーション活動の支援、(4) 妊婦健診の推進です。必要に応じて、清潔な水・衛生に関する研修や行動の変化を促すための広報活動も可能な限り実施しました。

#### コンポーネント3：州レベルの政策プラットフォームの構築と総合農村栄養ケア・アプローチの再現支援

コンポーネント3の目的は、州の保健省やリプロダクティブ・ヘルス・センターと農業農村開発局が、プロジェクトの進捗状況や成果を共同でレビューし、栄養に配慮した国家政策を初めて州レベルで実施するためのプラットフォームを構築できるよう支援することでした。中央、州、県レベルで定期的に協議が実施され、関係する政府機関も参加しました。本コンポーネントの主な活動は、(1) 州レベルでの栄養に配慮した農業・森林関連の政策措置の策定、(2) コミュニティの社会経済

開発計画への「栄養摂取量の改善」及び「発育障害率の減少」目標の追加、(3) 政策の実施に必要なガイドラインの作成、(4) 基金の設立に対する技術協力です。

#### コンポーネント 4：プロジェクトと知識の管理、運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 4 の目的は、セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル・ベトナムのプロジェクト管理ユニットを通じて、プロジェクト全体の管理を支援することでした。本コンポーネントで実施された活動は、(1) プロジェクト管理（受託者管理とセーフガードを含む）、(2) 政府の担当者との調整、(3) プロジェクトの成果を主要ステークホルダー（コミュニティ、州・県政府、関係省庁等）と共有するための専門的なワークショップの定期開催、(4) プロジェクトの実施状況に関する技術面・財務面の定期報告書、四半期ごとのプロジェクト・モニタリング報告書、ベースライン調査、中間審査、最終評価の作成、(5) 実施期間中にプロジェクトが直面した個々の課題に対する総合的な技術指導、(6) モニタリング・評価です。

### 実施中の変更

本プロジェクトでは 2 度にわたってレベル 2 の再編が行われました。最初の再編は 2020 年 6 月に行われ、成果枠組みを変更することで (1) 指標とプロジェクト活動及び期待される成果の整合性の向上、(2) 各指標の測定可能性を実現しました。一部の指標が具体的で測定可能な指標に置き換えられたほか、プロジェクトの実施状況をより定期的かつ定量的に追跡するための成果指標が追加されました。2 回目の再編は 2020 年 10 月 8 日に承認されました。重要な支援活動を全て実施し、プロジェクトの影響を注視し、測定する時間を確保するために、終了日が 9 カ月間延長され、2021 年 12 月 31 日となりました。延長期間の運営費はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンからの資金でまかなわれました。

### 成果の総合評価

本プロジェクトの総合的な成果に対する評価は「極めて満足」でした。プロジェクト開発目標は全て達成され、全ての指標が最終目標を達成又は上回りました。プロジェクト開発目標には 2 つの重要な目標として、(1) 子供の食習慣や母子保健の改善による対象村落の 5 歳未満児の栄養状態の改善、及び (2) 妊婦と乳幼児の栄養源の多様化があります。目標の達成度は、プロジェクト開発目標に関する 4 つの指標と 14 の中間成果指標によって測定され、プロジェクト終了時には全ての最終目標が達成又は上回りました。



## エチオピア – 若い女性の生活の質向上・栄養改善プロジェクト

グラント額：US\$2.75 million

開発目標：Sasie Tsaeda Emba 及び Seharty Samre の特定の若い女性を対象に、コミュニティ・ベースの栄養・生活の質向上サービスへのアクセスを改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1: ライフスキルと健康・栄養状態の改善を通じた若い女性（10～24歳）のエンパワーメントのためのコミュニティ動員

コンポーネント1の主な活動は、(1) ガールズクラブ計画へのコミュニティ指導者の参加、(2) 早婚やジェンダーに基づく暴力の防止等、ジェンダー問題に対する意識の向上を目的としたコミュニティ・イベント、(3) 女性メンターの選定と研修、(4) ガールズクラブの設立、(5) ライフスキル、生活の質向上、性と生殖の権利、栄養に関するカリキュラムに基づく、女性メンターによる教育セッションの実施、(6) 若い女性（15～24歳）を対象とした葉酸鉄の補給と年2回の虫下しの服用促進、(7) 現場の労働者及び管理職を対象とした、保健・栄養、農業、生活の質向上の機会に関する研修です。期待される主な成果は、同じ立場の少女たちが主導するガールズクラブを通じた健康・栄養状態の改善と女兒のエンパワーメント、及び関係機関の能力強化でした。

#### コンポーネント2: 生活の質向上と栄養状態の改善のための支援

コンポーネント2の目的は、自家栽培等、状況に合わせた所得創出活動を通じて、生活の質向上に必要なインプットのパッケージを若い女性（15～24歳）に提供することです。本コンポーネントの主な活動は、(1) 微量栄養素の豊富な、現地の気候に適した作物を特定するためのコミュニティとの協議、(2) 野菜の栽培や小動物の飼育技術を指導する農家研修センターの改修、(3) 若い女性（モデル農民）が微量栄養素の豊富な作物を栽培する農園を設立し、栄養に配慮した農業革新をコミュニティの他の女性に周知するためのキャパシティ・ビルディングと生活の質向上に必要なインプットのパッケージ、(4) 共通利益グループとしての共同組合を通じた、所得創出活動の維持と市場とのつながりの強化でした。期待される主な成果は、食料生産と消費のさらなる多様化、市場とのつながりの強化、経済的自立の促進、少女と女性のエンパワーメントでした。

#### コンポーネント3: プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント3の支援対象となった主な活動は、(1) プロジェクトを監督するための運転資金、(2) 日常的なモニタリング、(3) 中間審査、(4) 評価枠組み、(5) プロジェクト活動と地域の運営委員会との調整、(6) 教訓の共有でした。期待される主な成果は、(a) 参加型モニタリング戦略

の策定、(b) 財務管理と監査報告書、(c) 最終評価、(d) 総合的な実施報告書、(e) 知識の普及のためのワークショップでした。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、2020年4月にレベル2の再編が行われました。再編の主な目的は、指標の目標と実際の状況を一致させることでした。プロジェクトの対象となる受益者を正確に反映し、ベースライン調査の結果と一致する現実的な目標を設定し、エチオピア政府の最新の青年期栄養目標と整合させるための調整が成果枠組みに加えられました。全体的なアプローチとプロジェクトの構成要素は変更されなかったものの、ガールズクラブ（10～24歳）と女性農民（15～24歳）に焦点を合わせた支援が拡充されました。グラント契約書に記載されたドナーの上限と費用カテゴリーに従って、予算に軽微な変更が加えられました。

## 成果の総合評価

本プロジェクトの総合的な成果は「やや不満」と評価されました。本プロジェクトの活動は、生活の質向上に大きな影響を与えたほか、食料不足の状態にある対象地域の若い女性にコロナ危機が与えた壊滅的影響の緩和に貢献しました。ただし、その後に起きた紛争によって改善にはブレーキがかかりました。この地域が抱える安全保障上のリスクを考慮し、計画されていたエンドライン調査は見送られました。



## マラウイ – 青年期の栄養に配慮した農業パイロット・プロジェクト

グラント額：273 万ドル

開発目標：ムワンザ地区とンチシ地区の対象地域で暮らす若い男女を対象に、栄養価の高い食料の生産と消費を拡大し、生計手段へのアクセスを改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：栄養に配慮した農業を強化するためのコミュニティ動員とキャパシティ・ビルディング

コンポーネント 1 の目的は、15 ～ 19 歳の若者を動員しキャパシティ・ビルディングを実施することにより、栄養に配慮した農業への参加、全体的な栄養状態の改善、ライフスキル（金融リテラシーや生活の質向上を含む）の向上を実現することでした。本コンポーネントは（1）コミュニティの動員と（2）キャパシティ・ビルディングで構成され、自家栽培や作物栽培学、食品加工・利用、グループダイナミクス、ガバナンスに関する実証や研修を実施する際のプラットフォームとして、コミュニティのリーダー、親、（様々な年齢集団の）若者を動員しました。

#### コンポーネント 2：栄養価の高い食料の生産と消費の拡大

コンポーネント 2 の活動の目的は、年齢に合わせた支援を通じて、栄養価の高い食料の生産と消費を拡大するための知識と技術を若者に提供することでした。本コンポーネントの主な対象は、対象コミュニティの 15 ～ 19 歳の男女と妊娠中・授乳中の若い女性です。本コンポーネントは 2 つのサブコンポーネントで構成されています。（1）栄養に配慮した農業支援の実施は、若者とその世帯にインプット（自家農場、小動物の飼育、その他の適切な所得創出活動の促進等）を提供することにより、栄養価の高い作物や動物性食品の生産の拡大と強化を図りました。（2）栄養教育とコミュニケーションの目的は、若者とその世帯の多様化した食生活に対する需要と行動の変化を通じて、栄養価の高い食料の加工、消費、利用に関する意識、知識、慣行を改善することでした。

#### コンポーネント 3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の管理

コンポーネント 3 では、3 つのサブコンポーネントが実行されました。具体的には、（1）プロジェクトの管理と運営（プロジェクトの実施に必要な人件費、オフィス賃料、備品、コンピューター、通信機器、交通費を含む、プロジェクトの運営・管理費の提供）、（2）モニタリング・評価（実施機関であるマラウイ農業組合が管理し、受益者と共にプログラムの日常的なモニタリングを行う参加型モニタリング戦略）、（3）知識の普及と学習（地区・国レベルのワークショップを通じた、プロジェクトの成果や教訓の定期的な文書化・共有）です。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、**2019年4月にレベル2の再編が行われました**。目的は、外部機関である国際農業研究協議グループ（CGIAR）と共同で研修活動を実施できるようにすることでした。サブグラントを研修活動の実施に充当するため、グラント合意書が変更されました。具体的には、実行カテゴリーを追加し、実行カテゴリー間で資金を再配分できるようにしたほか、サブグラントの定義、サブグラントを実施するための取決め等が追加されました。グラント合意書の変更により、実施機関を通じて援助受入国が実施する研修と、サブグラントの受領機関が実施する研修が明確に区別されるようになりました。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標の達成度と総合的な成果は「満足」と評価されました。プロジェクト開発目標の妥当性は、評価段階では「高」と評価され、プロジェクト終了時も変更されませんでした。エンドライン評価の結果が示しているように、本プロジェクトはほとんどの成果目標を上回ったことから、効果性は「高」と評価されました。

## 3.3 包摂的教育

現在、学校に通っていない初頭教育学齢期の児童の半数近くは障害児です。学校に通っている場合も、障害児が卒業する確率は障害のない児童と比べて大幅に低く、5%未満とする試算もあります。その結果、成人障害者の内、読み書きができる者は3%にとどまり、女性に限れば1%にすぎません。そのため、障害児と成人障害者を教育に包摂することは、教育における重要なゴールです。教育は人的資本の形成に貢献し、個人の幸福や福祉を決定する重要な要因となります。

障害児を教育や雇用の機会から排除することは高い社会経済的コストを伴います。例えば、成人障害者は障害のない成人よりも貧困率が高くなる傾向がありますが、教育にはこの傾向を緩和する力があります。教育は全ての児童と同様に、障害児にとっても欠かせないものであり、雇用やその他の社会活動に参加するための手段にもなります。

国連はSDGsの目標4（全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する）の達成を誓いました。この目標は社会と経済の健全性にとってはもちろん、全ての個人の生活の質を高める上でも必須の条件であるため、JSDFは障害児への教育の提供を支援しています。



## キルギス共和国 – 学校改善に向けた コミュニティの関与

グラント額：270 万ドル

開発目標：最貧困地域を対象に、教員と学校運営者に求められる説明責任の強化と迅速な対応に向けて、市民参加による包摂的アプローチを開発し、生徒の成績向上に貢献します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：コミュニティ参加プロセスとキャパシティ・ビルディング

コンポーネント1では、コミュニティが学校と有意義に関わるための仕組みや技能の開発を支援しました。本コンポーネントは3つのサブコンポーネントで構成されています。具体的には、(1) 市民参加のプラットフォームとなる学校レベルの評議員会の設立と強化、(2) 市民が学校に効果的に関与できるように、相対的で使いやすい（予算・実績）情報を迅速に入手、分析、活用する能力の向上、(3) 学校レベルでの継続的な関与と協働を目的とした、市民主導の説明責任メカニズムであるコミュニティ・スコアカードの導入です。こうした活動は互恵的關係にあり、能力構築から積極的な情報共有、合意された優先措置の評価、計画、実施まで、連続して進められました。

#### コンポーネント2：不利な立場にある学校に優先的に投資するマイクログラント

コンポーネント2は、共同で特定した学校改善プロジェクトを実施するためのマッチング・ファンドを貧しいコミュニティに提供しました。コンポーネント2の支援対象となった活動は次の通りです。(1) 評議員会が共同行動計画に盛り込まれた、優先的に実施すべき学校改善策に必要な資源を支援、監督、動員するためのキャパシティ・ビルディング (2) 学校が資金プロポーザルを作成するための支援 (3) コミュニティが管理する競争的なマイクログラント・プログラムを通じて、学校が重点施策を実施するためのマッチング・ファンドを申請する機会の提供と、その実施の支援とモニタリング

#### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント3は、プロジェクト活動の効果的かつ効率的な実施に貢献しました。コンポーネント3は、「通常のプロジェクト管理」、「モニタリング・評価」、「知識の普及」をテーマとする3つのサブコンポーネントで構成されています。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、2020年6月17日と2021年3月23日の2度にわたって再編が行われました。いずれの再編でもプロジェクト終了日が延長され、最初の再編では2021年3月31日、最終的には2022年3月31日となりました。最初の延長（新規予算なし）の目的は、コンポーネント2で計画され、コンポーネント1でコミュニティ参加型の活動と紐付いていたマイクログラントをどの学校ももれなく受領できるようにすることでした。この延長の背景には、評議員会の銀行口座に制約があったために資金の流れが滞り、プロジェクトの実施に遅れが生じたことがあります。期限が延長されたことで、コロナ危機に起因する制約にも対応できるようになりました。2回目の延長（新規予算なし）の目的は、マイクログラントのコンポーネントを完了すること、その後にエンドライン調査を実施すること、社会的説明責任の原則を対象外の学校にも拡大し、プロジェクト開発目標の持続可能性を強化することでした。2回目の再編では、コンポーネント間及び支出カテゴリー間での資金の再配分も行われました。

## 成果の総合評価

プロジェクトの妥当性は「高」、効果性は「中」と評価され、総合的な成果に対する評価は「やや満足」でした。本プロジェクトは、市民参加に対する包摂的なアプローチの開発（成果1）や、教員と学校運営者の説明責任と迅速な対応の改善（成果2）では一定度の効果を、生徒の成績向上への貢献度（成果3）では十分な効果を発揮しました。本プロジェクトは、プロジェクト開発目標の5つの指標のうち1つ、11の中間指標のうち8つを達成又は上回りました。しかし、コロナ危機によって対面式の会議が制限され、プロジェクトの重要な時期に遠隔学習を余儀なくされたことなどから、コミュニティが学校と関わる機会は減り、学校（サービス提供者）と親・生徒（サービス利用者）の交流の質に変化が生じました。





## モンゴルー 起業に向けた社会情緒的スキルの向上：農村部の特に脆弱な若者のために

グラント額：275 万ドル

開発目標：モンゴルの中でも特に貧しい5州25村の脆弱かつ不利な立場にある若者のエンパワーメントと社会情緒的スキルの強化を図ることにより、学業成績を向上させ、自営業者となるための準備を強化します。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：農村部の脆弱な若者の起業に焦点を合わせた社会情緒的スキルに関するコミュニティ主導の革新的プログラムの開発と実施

コンポーネント1の主な活動は、(1) 対象となる郡（ソム）の学校や生涯学習センターで若者や教師が使用する、起業に重点を置いた実践的かつ革新的な社会情緒的学習カリキュラムと、関連する学習教材パッケージの開発、(2) 生徒のカウンセリングや指導を含む、起業に重点を置いた社会情緒的学習コースの実施に対する、対象学校及び生涯学習センターの教員向け研修教材の開発、(3) プロジェクトの各年度に実施される、コミュニティの意識向上を目的とした広報活動（地域の女性や少数民族のためのアウトリーチ活動を含む）の立案・実施、(4) 親の啓発を目的とした研修や関連する協議の企画・実施、(5) 県（アイマク）・郡レベルの地方議会が参加するマルチステークホルダー・ネットワーキング・プラットフォームの設立による、全てのプロジェクト成果のボトムアップ設計、現地の経済状況に応じた調整、プロジェクト活動の実施支援（コミュニティの短期的課題に対する個別の解決策の設計を含む）です。

#### コンポーネント2：対象となる若者が起業知識を発揮するための少額グラント制度の導入

コンポーネント2の主な活動は、(1) 対象郡の若者チームが作成し、複数の候補の中から選ばれた提案を支援する革新的なグラント制度の設計と試験的な実施、若者に合わせた研修とパーソナライズされたコーチング／メンタリングの提供、若者の提案の実施、(2) ステークホルダーの意識向上と全てのプロジェクト活動における「子どもの権利とビジネス原則」<sup>2</sup>の遵守、(3) グラント制度を利用して実施され、最も大きな成功を収めたアイデアの共有（若者を対象とした経験共有イベントやコミュニティ・ベースの情報キャンペーンを利用）、(4) 対象郡に学校ベースの企業を設立する可能性を検討するための包括的な経済評価と市場分析です。

<sup>2</sup> 「子どもの権利とビジネス原則」は、企業が子供の権利を尊重し、支援するために職場や市場、地域社会でできることを示した指針であり、国連機関が策定。モンゴル政府は2021年に同原則を採択し、労働法を改正。

### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント1の主な活動は、(1) プロジェクト・レベルで日々の活動を管理し、プロジェクト活動のモニタリング・評価を実施するプロジェクト管理チームの業務の支援（プロジェクトの成果枠組みの定期的なアップデート、プロジェクト・レベルの苦情処理メカニズム（GRM）の管理、セーフガード政策の遵守と予定されている環境・社会リスク緩和策の実施、セーフガード政策の遵守状況モニタリング、予定されている環境・社会的リスク緩和策の実施等）、(2) 最終評価の一環としてのベースライン調査とエンドライン調査の設計・実施、(3) 年次監査の実施、(4) 中間審査の実施、(5) 実施完了結果報告書（ICR）の作成、(6) ステークホルダーによる参加型のモニタリング・評価を支援する研修、(7) キャパシティ・ビルディング研修と知識の普及活動の実施（広報資料の作成、広報キャンペーン、コミュニティ・国レベルの協議、等）です。

### 実施中の変更

2023年11月付けで実施機関からプロジェクトの再編が要請されました。提案された再編の主な内容は、(1) プロジェクトの終了日を2023年12月31日から2025年6月30日に延長（新規予算なし）、(2) プロジェクト開発目標や暫定成果の指標と、プロジェクトの支援及び期待される成果の整合性を高めるための成果枠組みの修正、(3) コンポーネント間での資金の再配分、(4) グラントの実行計画の修正です。

### 現在の状況

本プロジェクト（P165310）は2019年8月から実施されており、グラントの実行率は72%です。前回のISRでは、プロジェクト開発目標の達成状況は「やや満足」、全体的な実施状況は「満足」と評価されました。プロジェクトは2025年6月に終了予定です。



## ブルキナファソ – 障害児の教育の改善

グラント額：275 万ドル

**開発目標：**脆弱な児童、特に国内の5つの最貧困地域（東部、中東部、南西部、中央台地、北部）及び首都ワガドゥグーの障害児を対象に、教育へのアクセスを改善し、教育の質を高めます。

**状況：**実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：未就学児向け教育機関及び小学校へのアクセスの改善

コンポーネント1の目的は、全ての児童、特に障害児が未就学児向け教育と初等教育を受けられるようにすることです。この目的を達成するためには、全国レベルで(1)包摂的教育の機会の提供、(2)学校インフラの改善とアクセスの向上を実現しなければなりません。(1)を実現するための主な活動は、(a)支援対象地域におけるベースライン調査を通じた、脆弱な立場の児童に関するデータの確保、(b)未就学児向け教育・初頭教育レベルの学校の特定、(c)親やコミュニティを対象とした広報・意識向上キャンペーンの実施、(d)障害児への質の高い教育の提供、(e)医療訪問の実施、(f)障害診断の提供、(g)障害児の就学を支援する小型機器の調達です。

#### コンポーネント2：授業の質の向上と補習教育の提供

コンポーネント2の目的は、適切な教授法を用いることで、脆弱な立場の児童、特に障害児の教育の質を向上させることです。この包括的な目標を達成するために実施される主な活動は、(1)児童の状態に合わせた革新的な教材の設計、(2)小学校と未就学児向け教育機関の教員を対象とした、障害児に配慮した教育的・教育学的アプローチに関する研修、(3)校長や教科主任を対象とした包摂的教育の管理・監督に関する研修、(4)教科主任による教員の教育学的モニタリングの開発、(5)留年や退学の恐れがある児童のための補習クラスの編成、(6)医学的なモニタリングや適切な医療の提供、(7)小型医療機器の調達です。

#### コンポーネント3：コミュニティ参加の強化と経済的制約の排除

コンポーネント3は、脆弱な立場の児童、特に障害児の教育への親やコミュニティの参加を強化するものです。全体にかかわるこの目標を達成するために、本プロジェクトが支援する主な活動は、(1)未就学児向け教育機関・小学校への学校運営委員会(SMC)の設置による障害児の入学と継続的な就学、卒業の促進、(2)包摂的教育、障害の知識と管理、障害児の権利、学校改善計画の策定と実施に関する、学校運営委員会向け研修の実施、(3)学校改善計画の策定(学校の設備、衛生インフラ、食堂のメンテナンス、障害児の送迎、理学療法活動、未就学児向け教育機関の

コミュニティ教員の採用等)、(4) 所得創出活動を実施するためのコミュニティ・レベルの市場評価と関連手順のマニュアル作成、(5) 所得創出活動に対するグラントを学校運営委員会に提供することによる、不利な立場にある世帯の脆弱な立場に置かれている全ての児童の入学と継続的な就学の確保、(6) 所得創出活動の適格受益者にコミュニティ・レベルで研修を実施することによる、活動の効率的かつ持続可能な管理です。

#### **コンポーネント 4：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及**

コンポーネント 4 の目的は、プロジェクトの日常的な管理、現地での実施状況のモニタリング・評価、コミュニケーションと知識の管理を支援することです。本コンポーネントの包括的な目標は、全ての支援対象活動を効率的に管理・調整することです。

### **現在の状況**

本プロジェクト (P166596) は 2021 年 12 月まで十分な有効性が認められず、その後クーデターが起きたことにより、2022 年 1 月と 2022 年 9 月の 2 回にわたってグラントの実行が中断されました。現在、プロジェクトは再開していますが、治安の悪化による学校閉鎖の影響が生じています。グラントの実行率は 28% です。前回の ISR では、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況の評価はいずれも「やや満足」でした。プロジェクトは 2024 年 10 月に終了予定ですが、再編により終了日は延長される可能性があります。

## 3.4 現地のガバナンスと説明責任

極度の貧困を撲滅し、繁栄の共有を促進するためには、能力と効率、オープン性、包摂性、そして説明責任を備えた組織・制度の構築が不可欠です。強固な組織・制度を持つ国は、貧困の削減、有益なサービスの提供、民間セクターの成長促進、市民との信頼関係の構築に貢献する環境を作ることで、成長と繁栄を成し遂げます。政府と市民が信頼関係を築くためには、市民が政府の意思決定プロセスに参加し、意見を述べることができなければなりません。

JSDF は、開発活動の計画、実施、モニタリングへのコミュニティの参加を推進し、現地政府の能力を強化することにより、地域のガバナンス強化とサービス改善を支援します。2021～22年度のグラントは、市民と市民社会組織（CSO）が政府やサービス提供者に自らのニーズを明確に伝える手段として社会的説明責任を促進しています。このアプローチは、政策の立案や公的資金・資源の管理、サービスの提供といった政府の活動に市民やCSOの意見を取り入れる上でも有効であり、市民社会が公共支出の監視に参加し、政府のパフォーマンスに意見を述べることを可能にします。



### ルワンダ – 市民参加推進プロジェクト

グラント額：285 万ドル

開発目標：ルワンダの 249 の村落において、1 万 7,750 世帯、7 万 6,000 人の生活の質を向上させ、コミュニティや中央政府、地方自治体の能力を強化することにより、市民参加を促進します。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント 1：村落と自治体のキャパシティ・ビルディング

コンポーネント 1 では、郡、セクター、セルの各レベルで自治体のキャパシティ・ビルディングを実施することにより、コミュニティ主導の村落開発計画の立案を促進し、市民参加の拡大と農村部の生活の質向上を図ります。また、コミュニティが村落開発計画の立案に参加し、自ら決定したサブプロジェクトを管理できるよう、コミュニティのキャパシティ・ビルディングに取り組みます。主な活動は、(1) 自治体の能力構築、(2) 村落レベルの能力構築、(3) アドボカシー活動です。

#### コンポーネント 2：マイクログラント

コンポーネント 2 では、生活の質向上を図るため、村落開発計画において重要度が高いと判断

されたサブプロジェクトを支援します。対象となる各村落は、2年間で8,000ドルのグラントを受け取ります（1年目に60%、2年目に残る40%）。このグラントは、1つのサブプロジェクトに対して2回に分けて使うこともできれば、2つの異なるサブプロジェクトに対して使うことも可能です。参加する郡の自治体はグラント総額の5%を拠出し、コミュニティの住民も現物出資の形で参加します。マイクログラントは、適格条件を満たす全ての対象村落に提供されます。適格条件は、村落自治組織選挙の実施、村落開発計画の作成、サブプロジェクトの提案と承認等です。コミュニティは、村の社会的・経済的福祉を村落開発計画に沿って向上させるために、マイクログラントの対象となるサブプロジェクトを選択します。

### コンポーネント3：参加型村落計画のための国家的枠組み

コンポーネント3では、コンポーネント1と2で実施したパイロット活動から得られた教訓をまとめ、ルワンダ政府が参加型村落計画の国家的枠組みを構築できるよう支援します。主な活動は、(1) 既存の計画立案システムへの促進型共同行動プロセス（FCAP）の統合、(2) 行政関係者へのコミュニティ主導の計画手法の有効性の周知、(3) 村落主導の住民参加型計画立案・開発を強化するために中央政府が推進する全国規模のイニシアティブ（参加型村落計画のための国家的枠組み）の開発です。

### コンポーネント4：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント4ではプロジェクトの管理・運営費用、例えばプロジェクトの立ち上げ、中間審査、年次監査、実施完了結果報告書（ICR）等に係る運営費用（事務機器、消耗品、水道光熱費等）、プロジェクトの実施に直接関与する実施機関職員の給与の最大5%を支援します。本プロジェクトは分散型人材配置モデルに基づき、郡とセクターの事務所にチームを配置し、キガリ事務所とムサンゼ事務所の運営チームの監督下に置きます。コンポーネント4では、コミュニティの住民、研修パートナー、自治体等、全てのステークホルダーがプロジェクトのモニタリング・評価システムに包括的に参加できるようにします。また、コミュニケーション・広報戦略を策定し、得られた教訓を政策立案者と共有すると共に、プロジェクトの認知度向上を図ります。この戦略の重要な目標は、主要な意思決定者が参加型の計画立案を支持し、その実現に積極的に取り組むようにすることです。

## 現在の状況

本プロジェクト（P172862）は2021年2月から実施されており、グラントの実行率は97%です。前回のISRでは、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「満足」と評価されました。本プロジェクトは2024年12月に終了予定です。



## ラオス人民民主共和国 — 脆弱なコミュニティのための情報発信・意識向上サービス

グラント額：251 万ドル

**開発目標：** 選択した農村地区の1万5,000人の貧困層・脆弱層（うち60%は女性）を対象に、法的情報やカウンセリング・サービスへのアクセスを改善し、人々が地域の天然資源や生活に対する自らの権利を守り、行使できるようにします。

**状況：** 実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：市民社会組織（CSO）のキャパシティ・ビルディング

コンポーネント1では、土地情報ワーキング・グループ（LIWG）に参加しているCSOのメンバーを対象としたキャパシティ・ビルディングを支援することにより、CSOが各村落のパラリーガル・ボランティアにカウンセリング・サービス研修を提供し、最脆弱層や長く排除されてきた農村コミュニティ（女性、障害者、少数民族、僻地のコミュニティ等）において、公的情報の発信や意識向上活動を展開できるようにします。本コンポーネントは複数のサブコンポーネントで構成されており、(1) LIWGに参加しているCSOの意識向上とキャパシティ・ビルディングでは、実施機関である Helvetas Swiss Intercooperation が、LIWGに参加している現地CSOの能力を強化し、意識向上に関するサブグラント活動を実施できるよう支援します。LIWGに参加しているCSOを対象とした指導者向け研修も郡レベルで実施します。研修の主なテーマは新しい土地・森林法、特に同法が定める天然資源と生活に対するコミュニティの権利です。女性、若者、障害者の包摂に関する特別研修も実施予定です。(2) LIWGに参加しているCSOを対象に、実施機関がカウンセリング・サービスとキャパシティ・ビルディングを実施し、村のパラリーガル・ボランティアがカウンセリング・サービスを提供できるようにします。目標は、LIWGに参加しているCSOの職員の能力を強化し、パラリーガル向け研修を実施したり、パラリーガルが天然資源や生活に対する権利について、住民にカウンセリング・サービスを提供したりできるようにすることです。キャパシティ・ビルディングの内容は、プロジェクト期間に実施するキャパシティ・ニーズ評価をもとに調整・評価します。

#### コンポーネント2：サブグラント

研修を受けた村落のファシリテーターは、LIWGに参加しているCSOに配分されたサブグラントを利用して、農村コミュニティに直接、公的情報を発信します。こうした活動を実施するのは、Helvetasに参加しているCSOの研修・指導を受けた、地元コミュニティの住民です。プロジェクトの開始時にサブグラントの提供先として選ばれた少数のCSO（約6団体）が、現地のファシリ

テーターや村落の中心人物に研修・指導を行い、コミュニティ全体の意識向上を図ります。コンポーネント 2 では、法律相談サービスを提供する事業者の能力強化にも取り組みます。

### コンポーネント 3：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 3 では、Helvetas と LIWG を対象に、プロジェクト管理に関するキャパシティ・ビルディングを実施します。例えば職員向けの研修では、活動の実施、プロジェクトの管理（財務管理、資金調達等）、モニタリング・評価に加えて、(1) 環境・社会フレームワーク（ESF）や世界銀行の調達・財務管理規則が定める、しかるべき全ての評価・監査報告書の作成、(2) しかるべき全てのモニタリング・評価報告書について学びます。

## 現在の状況

本プロジェクト（P170640）は 2021 年 6 月から実施されており、グラントの実行率は 37% です。前回の ISR では、コンポーネント 2（サブグラント）の進捗が遅れていたため、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「やや不満」と評価されました。本プロジェクトの大きな課題は、Helvetas とラオス人民民主共和国政府の間で覚書の締結が遅れていることと関連していますが、この遅れは最近、解消されました。本プロジェクトは当初は 2024 年 7 月に終了予定でしたが、実施の遅れを取り戻すため、終了日を 2025 年 9 月に延長することが提案されており、現在検討中です。





## ザンビア – 発言と説明責任：現地サービス向上のためのコミュニティ・エンパワメント・プロジェクト

グラント額：275 万ドル

開発目標：コミュニティの意識向上と学校運営、自治体への参加を促進することにより、ザンビアの9つの対象郡で責任ある初等・中等教育サービスを実現します。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：教育サービスの提供に対するコミュニティの意識向上

コンポーネント1の目標は、初等・中等学校の教育サービスに対するコミュニティの意識を高めること、当該コミュニティが対象郡の学校運営や自治体に参加する能力を強化することです。研修資料や社会的説明責任ツールの開発、コミュニティ・グループの立上げ、コミュニティ代表者や住民の能力構築、自治体や学校運営者の意識向上も支援します。こうした活動は、自治体が教育サービスやコミュニティ向けに導入したコロナ対応策についてのコミュニティの意識向上にも貢献します。コミュニティ、プロジェクトのスタッフ、その他ステークホルダーの安全を確保するため、研修はザンビア政府が定めた安全手順に沿って実施されます。

#### コンポーネント2：教育サービスの提供におけるコミュニティの関与と参加の拡大

コンポーネント2の目標は、コミュニティの能力を強化し、教育サービスのモニタリング、学校運営者や自治体との対話、サービス提供の改善に参加できるようにすることです。対象コミュニティにおいて、社会的説明責任に関する革新的な取り組みを試験的に実施すると共に、コミュニティ間の知識交換を促進することにより、コミュニティのエンパワメントを実現することを目指します。主な活動は、自治体が教育サービスやコミュニティのために導入したコロナ対応策のモニタリングと、こうした対応策における自治体との連携です。

#### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント3の目標は、実施機関が本プロジェクトの日常業務を管理・遂行し、活動の実施状況と成果をモニタリングし、関連するステークホルダーとの調整を実施し、プロジェクト・レベルの知識を広く共有できるよう支援することです。主な活動は、プロジェクトの日常的な管理、活動の実施、モニタリング・評価、受託者管理、環境・社会セーフガード、ステークホルダーとのコミュニケーション、広報活動です。

## 現在の状況

本プロジェクト（P173472）は2021年7月から実施されており、グラントの実行率は43%です。前回のISRでは、プロジェクト開発目標の達成状況は「満足」、全体的な実施状況は「やや満足」と評価されました。本プロジェクトは2025年6月に終了予定です。

## 3.5 基礎的な保健・衛生サービス

このテーマ別分野は、個人及コミュニティの心理社会的健康や強靱性を強化し、保健サービスの提供を改善するために、成果重視型の資金提供と革新的なアプローチを促進しています。これらの活動はSDGsの目標3（あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する）と一致しています。



### エボラ流行後のコミュニティ参加型の 地方自治体サービス提供の強化

グラント額：275 万ドル

**開発目標：**エボラ出血熱の影響が最も大きかった地域において、エボラ出血熱に関する啓発活動や社会動員活動を実施し、コミュニティの強靱性を高めることにより、エボラ出血熱流行後の地域レベルのニーズに対応します。

**状況：**終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：地方自治体の社会啓蒙活動

コンポーネント1では、社会の結束と強靱性を高めるため、地方自治体の能力を強化し、ボンバリ、フリータウン／西部地域都市地区、ポルトロコ地区、西部地域地方地区（全体でシエラレオネにおけるエボラウイルス感染事例の70%を占める）において、コミュニティ規模の啓発会合、フォーラム、保健関連の講演を開催することにより、エボラ出血熱が社会的信頼に与えた悪影響の緩和と、患者が切実に求めている支援の提供に取り組みました。

#### コンポーネント2：地方自治体のサービス提供を改善するための社会動員メカニズムの構築

コンポーネント2では、フリータウン／西部地域都市地区とポルトロコ地区のコミュニティの強靱性を強化するために、(1) 社会サービスを効果的に提供するための社会的説明責任とコミュニティ監視の仕組みの構築、(2) 地方自治体サービスのモニタリングに対する市民の直接参加の促進、(3) 参加型予算編成の試行を実施しました。

#### コンポーネント3：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の管理

コンポーネント3では、主にプロジェクトの管理、調達、財務管理、モニタリング・評価に関する業務を支援しました。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、レベル2の再編が行われ、実施機関や制度的取決めが変更されました。具体的には、政府の要請に基づいて財務省地方政府財務局の役割を明確化したほか、カテゴリー間、コンポーネント間での資金の再配分、グラントの実行計画の変更等を実施しました。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標の妥当性は、実施期間を通じて「高」と評価されました。プロジェクト活動に起因する成果、イノベーション、迅速な対応に基づく効果性は「高」、費用対効果や事務・実施効率上の特筆すべき成果に基づく効率性は「中」でした。これにより、本プロジェクトの総合的な成果は「極めて満足」と評価されました。



## ベトナム – 高齢者の所得・保健関連の脆弱性の低減

グラント額：275 万ドル

開発目標：6つの省の対象コミュニティにおいて、高齢者が所得創出活動に参加し、コミュニティ・ベースの保健・社会的ケアサービスを利用できるようにします。

状況：実行中

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：多世代間自助クラブ（ISHC）の設立と継続的なキャパシティ・ビルディング

コンポーネント1が支援する主な活動は、(1) プロジェクトのオリエンテーション研修、(2) ISHCの設立、(3) クラブ管理委員会と現地の高齢者協会の職員を対象とした初期研修、(4) レビュー会議と追加研修、(5) ISHCに関する、又はISHCのためのプロジェクト・マニュアル及びガイドライン、研修資料、情報・教育・コミュニケーション資料の作成、(6) ISHCに技術支援を提供するための定期的な視察、(7) ISHCのマニュアル及びガイドライン、情報・教育・コミュニケーションに関する研修資料の印刷、(8) ISHCの月例会議・活動、ISHCに対する月次グラントです。

#### コンポーネント2：所得保障

コンポーネント2の支援対象は、(1) ISHCを対象とした生活の質向上のためのリボルビング・ファンド・グラントの実行、(2) ISHCの代表者や現地の高齢者協会の職員を対象とした所得創出活動のスキーム及び技術に関する研修の実施、(3) ISHCにおける所得創出活動グループの組成とファンド参加者やISHCメンバーとの知識・経験の共有、(4) ISHCによるメンバー研修（所得創出活動に関する技術や仕組み）の実施、及びISHCの所得創出活動や資金管理に対する継続的な技術支援、(5) ISHCによる公的な所得保障へのアクセス促進と現地での資金調達です。

#### コンポーネント3：コミュニティ・ベースの保健・社会的ケア

コンポーネント3の活動は、(1) ISHCの代表者、現地の高齢者協会、保健分野の職員に対する継続的な保健・社会的ケア研修の提供、(2) 研修資料の作成に対する継続的な技術支援、研修活動の実施、ISHCの保健・社会的ケアに技術支援を提供するための定期訪問、(3) メンバーと非メンバーを対象としたISHCによる健康意識向上のための活動、(4) 健康的で活動的なライフスタイルを促進するための運動、スポーツ、文化グループを通じた健康増進、(5) 健康診断キット、生涯学習キット、介護キットの調達と配布、(6) その他のISHCに関する活動、具体的には(a) 現地のコミュニティ保健サービスとの基本的な月次保健モニタリング、(b) 現地の地区、コミュニ

ティ保健サービス、民間の医療従事者との隔年での健康診断、(c) 現地の高齢者協会、ISHC、医療従事者との協議、(d) 在宅介護ボランティアの募集と管理、ISHC とボランティアによる在宅介護サービスの提供、(e) ISHC メンバーの健康保険の利用促進と利用方法の周知です。

#### コンポーネント 4：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 4 では、プロジェクトの進捗状況を把握し、より良い成果を上げるために、プロジェクトの管理、運営、モニタリング・評価活動を支援します。全ての査定・評価は参加型で実施されます。これは受益者の懸念を把握し、調査結果を支援策の改善につなげることで、受益者のニーズに対応するためです。ISHC モデルを周知するための費用も支援します。

### 実施中の変更

本プロジェクトでは、レベル 2 の再編が行われました。コロナ危機の発生や、現地でのプロジェクト承認手続きに時間を要したことから、本プロジェクトの開始は予定よりも遅れ、活動の実施状況に影響が生じました。この初期の遅れに対応するために、またデジタルツールを使ってプロジェクトの効率性とインパクトをさらに強化するために、プロジェクトの再編が提案されました。目的は、(1) プロジェクトの累積資金を利用して、6 省の中で最も貧困率の高いニントゥアン省に 6 つの ISHC を新設すること、(2) 研修費用の増額、(3) デジタル研修資料の作成費の支援、(4) 質の高い ISHC を実現し、プロジェクトの持続可能性とインパクトを高めるために、プロジェクトの終了日を 2024 年 9 月 30 日から 2024 年 12 月 31 日に延長することです。

### 現在の状況

本プロジェクト (P171030) は 2020 年 6 月から実施されており、グラントの実行率は 84% です。前回の ISR では、プロジェクト開発目標の達成状況と全体的な実施状況はいずれも「満足」と評価されました。本プロジェクトは 2024 年 12 月に終了予定です。

## 3.6 第5回アフリカ開発会議（TICAD V）グラント



### セネガル — 食料・栄養不足に対する強靱性構築

グラント額：282 万ドル

開発目標：国内の対象地域に適切な新技術を普及させることにより、脆弱世帯が食料・栄養の安全保障を強化するサービスにアクセスできるよう支援します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：女性の組織化とエンパワーメント

コンポーネント1の重点分野は、女性を対象に食料の生産、調達、供給に関するキャパシティ・ビルディングを実施し、生活の質の向上を促進することでした。この目標を達成するために、既存又は新規の女性グループのプラットフォームが管理する連帯ネットワークが設立されました。こうした女性グループがコミュニティのプラットフォームとなり、(1) 栄養失調の子供のための穀物銀行等、連帯型支援の促進と実施、(2) 政府が補助金を提供するコミュニティ疾病保険へのアクセスの提供、(3) 新しい手法や技術、財務管理に関する研修やキャパシティ・ビルディングの提供による女性の経済参加の支援、(4) 生活、ケア、栄養に関する必須スキルの促進を実施しました。

#### コンポーネント2：品種改良と世帯レベルでの小規模かつ適切な技術活用

コンポーネント2は、選択したコミュニティに新しい技術を試験的に導入し、その普及を支援するものでした。こうした技術の例としては、改良型のバイオ強化植物や家畜、生産・灌漑技術、改良型の貯蔵・保存・調理・加工技術、水や環境・衛生関連の技術があります。コンポーネント2の目的は、「農場から食卓まで」を網羅したバリューチェーンに沿って、改良品種や新しい生産・食品加工技術の特定、テスト、試験的導入を実施し、その上で対象地域での普及を図ることでした。

#### コンポーネント3：コミュニティのリーダーシップとガバナンス

コンポーネント3の目標は、ガバナンス体制の構築でした。この体制は、プロジェクトの制度面をコミュニティ・レベルで支えるもので、(1) 強靱性を高める形でコミュニティとの対話を支援するアプローチの確立、(2) 対象コミュニティにおける起業家ネットワークの構築、(3) 生産投入材を供給するためのリボルビング・スキームの構築という3つの目的を掲げていました。

## コンポーネント4：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の管理

コンポーネント4の目的は、プロジェクトを技術・管理・財務面で管理するための支援を提供することでした。知識の管理を支援するという側面も、経験の文書化、ベストプラクティスの特定と再現、イニシアティブの効率性に対する深い理解を通じて、プロジェクト開発目標の実施と達成に重要な役割を果たしました。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、レベル2の再編が行われました。再編の目的は、(1) 終了日を6カ月間延長し、2021年5月31日とすること、(2) 成果指標の目標の調整、(3) 成果指標の変更でした。

## 成果の総合評価

本プロジェクトの総合的な成果は「**極めて満足**」と評価されました。食料・栄養不足の解消と強靱性の実現というセネガル政府のビジョンとの整合性は極めて高く、コミュニティの積極的な参加とオーナーシップ、技術的・プログラムの効果性と効率性の両方を支援するために既存のイニシアティブをプールする能力も大きな強みでした。プロジェクトの財源管理に関する事務的なボトルネックを解消するために、プロジェクトの初期に遅れが生じたため、本プロジェクトの効率性はやや低いと判断され、評価結果は「中」となりました。





## コートジボワール – 栄養価の高い農作物の栽培と小規模・零細農家の能力構築支援プロジェクト

グラント額：273 万ドル

開発目標：特定の地域の貧困世帯を対象に、植物・動物由来の微量栄養素を豊富に含んだ食料へのアクセスを改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：栄養素を豊富に含んだ高付加価値作物及び動物性食品の生産に係る村落のモデル農場及び自家農場への支援

コンポーネント1の目的は、女性の小規模農家を支援すること、栄養素を豊富に含んだ製品を中心に、改良型の多様な生産システムに適応することでした。主なサブコンポーネントは次の2つです。(1) 自家農場及び村落のモデル農場の設立。果物、栄養素を豊富に含んだ野菜、その他市場性のある農産物を生産するための良質な投入材の提供を含む。(2) 提供された農業投入材を正しく使用するための研修等、受益者に対する技術的・実践的な支援の提供、及び支援の効果を可視化することによる成果の普及。

#### コンポーネント2：能力向上と栄養教育

コンポーネント2の目標は、栄養や衛生、節水技術、ジェンダーに関する行動の変化を促すこと、パートナーや改良技術普及員、コミュニティ・ヘルスワーカーの技術力を高め、女性とその家庭に最新の適切なアドバイスを提供することでした。主な活動は、(1) コミュニティ・ヘルスワーカーや村落の農民リーダーを対象とした栄養教育及びキャパシティ・ビルディングを通じて、女性グループ、個人メンバー、その世帯に「必須栄養行動」及び「必須衛生行動」を効果的に提供すること、(2) 節水技術、堆肥作り、水・衛生分野において、農業技術普及員の能力を高めることにより、農民へのアドバイスを改善し、女性のニーズに合った農業改良普及事業を提供することです。

#### コンポーネント3：インフラへのアクセス向上

コンポーネント3の目的は、通年生産を支援し、収穫後の野菜損失を減らすことにより、栄養素を豊富に含んだ、質の高い作物の生産、消費、販売を改善することです。サブコンポーネントは、(1) 井戸の建設を含む灌漑用水へのアクセス向上と、節水技術やマイクロ灌漑設備の提供による灌漑用水の効率的な利用の支援、(2) 収穫後処理及びマーケティング技術の支援です。サブコンポーネント(2)の目的は、(a) 従来の野菜の流通と潜在的なバリューチェーンに関する市場との関係

と機会の特定、(b) マーケティングや関連するバリューチェーンとの関係に関する農業技術普及員向けの研修、(c) 女性生産者グループが生産物を販売する際に直面する制約の特定と、こうした障害を乗り越えるための支援、(d) 女性生産者グループによる事業計画の作成と、生産物の販売促進策の調達提案、(e) 小規模農家が栄養素を豊富に含んだ作物の生産に移行するための資金調達や効果的な変化を支援するマッチンググラントの提供です。

#### コンポーネント 4：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント 4 の目的は、プロジェクトの効率的な管理と調整、プロジェクトの実施状況のモニタリング・評価、プロジェクトを他の地域でも再現できるようにするための成果と結果の共有を支援することでした。実施機関のヘレン・ケラー・インターナショナルは、全体の調整、調達、財務管理、モニタリング・評価（定期報告の作成と提供、本プロジェクトで特定したサービスを提供するためのコンサルタントの採用を含む）を担当しました。主な活動は (1) プロジェクトの管理と運営、(2) モニタリング・評価、(3) ワークショップや研修イベントを通じた知識の普及です。こうしたイベントは様々なレベル、様々な対象者を対象に開催され、プロジェクトの成果、政策との整合性、得られた教訓の共有に貢献しました。

#### 実施中の変更

本プロジェクトでは、合意文書の矛盾点を解消するために早い段階で再編が行われました。再編では、(1) グラント合意書の修正（金額を 273 万ドルから 272 万 8,824 ドルに修正し、修正後の金額と一致するように支出カテゴリー別のグラント資金配分表を修正）、(2) プロジェクトの活動を完了するために、プロジェクトの終了日を 2020 年 3 月 31 日から 2022 年 2 月 22 日に延長でした。新しい終了日に合わせてグラントの実行計画も修正され、成果の指標にも小規模な変更が加えられました。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標の指標が達成されていることから分かる通り、コートジボワールの特定の地域の貧困世帯を対象に、栄養素を豊富に含んだ植物・動物性食品へのアクセスを改善するという開発目標は全て達成されました。生産の多様化と栄養素を豊富に含んだ食料の生産量拡大は、プロジェクト開発目標の達成に効果的に貢献しました。この成果は、生産に必要なものへのアクセスを強化することで達成されました。具体的には、(1) 野菜生産用の土地へのアクセス拡大、(2) 投入材（種子、肥料、植物衛生製品）の提供、(3) 監督、モニタリングに関する受益者向け研修、(4) 深井戸の建設とカリフォルニア式灌漑システムの整備による水へのアクセス、(5) 家禽生産の改善です。プロジェクト開発目標に関する指標は全て高い水準で達成されており、プロジェクト実施地域では栄養素を豊富に含んだ食料へのアクセスを提供するというプロジェクト開発目標全体の達成に向けて大きな進展があったことから、総合的な成果は「**極めて満足**」と評価されました。



## コンゴ共和国プール地方の持続可能な生活の質支援

グラント額：275 万ドル

開発目標：プール地方の対象コミュニティで生計手段へのアクセスを改善します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：生活の質の向上

コンポーネント1の重点分野は、協働労働の促進と所得創出活動の改善により、対象世帯の生活の質と所得を向上させることでした。本コンポーネントはプール地方の対象コミュニティの180の女性グループと12の青少年生計グループを対象に、主に協働労働の促進と受益世帯の所得創出活動の改善を支援しました。

#### コンポーネント2：家庭用と生産用の持続可能なエネルギー使用の促進

コンポーネント2は、エネルギーの提供・消費方法の改善を促進し、対象コミュニティのエネルギー不足に対応するための様々な措置を試験的に実施することで、生活の質の向上を支援する機会を提供するものでした。対象コミュニティにおいて、エネルギーの生産・利用慣行の詳細な評価を支援するために、代替エネルギー資源の利用可能性や乾燥・燻製食品及び野菜の需要に関する市場評価等を支援しました。

#### コンポーネント3：プロジェクトの管理と運営、モニタリング・評価、知識の普及

本プロジェクトの主要な実施機関となった元兵士の社会復帰のための高等弁務官事務所は、プロジェクトの調整と実施を支援するために、プロジェクト担当者、モニタリング・評価の専門家、財務・管理助手からなる小規模な専門チームを立ち上げました。また、農業省が推進する農業開発・農村道路修復プロジェクトのプロジェクト実施ユニットのサービスやシステムを活用しました。

### 実施中の変更

対象地域で発生した暴力的紛争の影響を受けて、本プロジェクトは実施期間の初期に大幅な遅れに見舞われました。2019年6月に始動したものの、2020年2月になっても進捗が見られなかったため、2度にわたる再編が行われました。内容は、(1) プロジェクト終了日を2022年2月28日まで21カ月間延長すること、(2) 支出カテゴリー間の資金配分を変更することでした。

## 成果の総合評価

プロジェクト開発目標の指標は大部分が達成されるか、目標を上回りました。中間成果の指標も1つを除き、全て達成されました。プロジェクト活動は、明確に定義されたプロジェクト開発目標と成果志向の成果枠組みに基づき、現実的な仮説に沿って設計されました。妥当性は「高」、効果性と効率性は「中」と評価され、また結果に大きな問題がなかったことから、総合的な成果は「満足」と評価されました。

プロジェクトの総合的な効率性は「中」と評価されました。プール地方の治安が悪化し、プロジェクト実施ユニットと実施パートナーの採用プロセスが長引いたことから、実施期間の初期に遅れが生じ、プロジェクト終了日が21カ月間延長されました。延長期間は準備の強化に充てられ、新たな終了日までに全ての活動を完了するために、実施機関が取組みを加速させたことから、終了日の延長による悪影響は生じていません。この再編の後、本プロジェクトは再び難局に直面し、グラント収入を再配分するために2度目の再編が行われました。再編に伴って新たに追加された予算はありませんが、この再配分により直接受益者の数は当初の計画である1,920人よりも多い、3,014人となりました。

## 3.7 アフガニスタン特別枠グラント



### アフガニスタン – 女性の経済的エンパワーメント

グラント額：274 万ドル

開発目標：アフガニスタンのパイロット地域でコミュニティ貯蓄グループに参加している女性を対象に、事業支援サービスや所得創出活動への参加を促進・強化します。

状況：終了

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：経済的エンパワーメントのためのクラスター・プラットフォームの形成

コンポーネント1では、既存のコミュニティ貯蓄グループ（CBSG）を、より大きな「クラスター」としてまとめました。クラスターはコミュニティ開発協議会レベルのプラットフォームであり、複数のコミュニティ貯蓄グループや村落で構成されています。クラスターはコミュニティ主導の効果的かつ再現可能なプラットフォームとして、女性が所得創出活動に従事し、様々なサービスにアクセスするための強力な機会と支援を得られるよう支援しました。プロジェクト審査の段階では、こうした仕組みはアフガニスタン女性の経済的エンパワーメントを実現するには規模感に欠け、小規模な貯蓄グループのレベルを超えるものではありませんでした。地域的、文化的規範に従い、コミュニティ貯蓄グループは男性又は女性のみで組織されていたため、クラスターも男性のみ、又は女性のみとなりました。本プロジェクトの目標は、47のクラスター（女性クラスターが45、男性クラスターが2）を作ることでした。主な活動は、クラスターの形成を支援するコミュニティ・ファシリテーターの選任と訓練、コミュニティで最も脆弱な立場にある女性の支援でした。この他、クラスターが開発計画を策定し、メンバーのニーズや優先事項、行動をまとめ、メンバーが生産者グループや起業家グループを形成するための支援も提供しました。

#### コンポーネント2：研修、事業開発サービス、市場アクセス

コンポーネント2の目的は、新たに形成され、活動を開始したクラスターが事業研修、事業開発サービス、市場アクセスを提供できるようにすることです。主な活動は、(1) ソフトスキルの重視に加えて、女性のエンパワーメントと所得創出を可能にするスキルをテーマに、市場重視の研修モジュールを設計・提供すること、(2) 各コミュニティに事業開発サービスのリソースパーソン（通常はコミュニティ開発協議会やコミュニティ住民の自宅でメンバーにメンタリングや事業支援を提供している非常勤の女性助手）を置くこと、(3) 現地の女性生産者に代わり、市場仲介支援や地域での見本市の開催等を通じて、取引契約の締結を促進することです。

### コンポーネント3：金融アクセスの拡大

コンポーネント3では、所得創出活動を始めるための貸付金として、クラスターからメンバーにシード・グラントが提供されました。この資金は、所得創出活動を開始し、成長させるための費用を自己資金や融資でまかなえない場合に、コミュニティ貯蓄グループの女性たちが直面する流動性や資金面の問題を解決する助けとなりました。具体的には、本プロジェクトは(1)シード・グラント(リボルビングローン・ファンド)がシャリーア適格<sup>3</sup>となるように設計し、クラスター・メンバーの生産活動(例:生産投入材や技能習得のための融資)に関する提案を支援したほか、(2)クラスターを対象に、リボルビングローン・ファンドの利用と適切な管理に必要な知識と理解を得るためのキャパシティ・ビルディングを実施(貧困層や脆弱な女性によるアクセスの確保、借入を維持するための継続的な返済等)しました。これは全額が外部資金によるリボルビングローン・ファンドをクラスター・レベルで提供するもので、アフガニスタンでは革新的な取り組みでした。この取り組みから得られた教訓は、女性の経済的エンパワーメントに係る国家優先プログラムの「金融アクセス」ピラーのアプローチや施策に活用されています。

### コンポーネント4：プロジェクトの管理、モニタリング・評価、知識の普及

コンポーネント4では、主に(1)プロジェクト管理(プロジェクト・マネージャー、調達専門家、財務管理専門家、実施完了報告書、年次監査、運営費等)、(2)モニタリング・評価(パイロット・プログラムと「女性の経済的エンパワーメントに係る国家優先プログラム」に定期的に情報を提供するための迅速なプロセスフィードバック、ベースライン調査と最終評価調査、受益者による参加型モニタリング研修、モニタリング・評価の専門コンサルタント、最終的な影響評価の分析と報告)、(3)知識の普及(知識管理の専門家、2回以上の知識共有イベントの開催)に関する活動を実施しました。

## 実施中の変更

本プロジェクトでは、3度にわたって再編が行われました。(1)2019年8月、南アジア地域のジェンダー・イノベーション・ラボに対する提案が成功し、モニタリング・評価活動の追加資金として、新たに15万ドルを調達しました。(2)2019年12月、本プロジェクトの開始から2年弱が経過したタイミングで、受益者であるアーガー・ハーン財団(アフガニスタン)の要請をもとに再編が行われました。この再編では、コンポーネント3の実施体制が簡素化されたほか、プロジェクト終了日が2020年4月1日から2021年3月31日へ12カ月間延長(新規予算なし)されました。この再編は、実施に遅れが生じており、実施に関する取決めも簡素化する必要があったことによるものでした。(3)2021年1月、受益者であるアーガー・ハーン財団(アフガニスタン)は、プロジェクト終了日を2021年3月31日から2021年6月30日まで、3カ月延長(新規予算なし)することを要請する文書を提出しました。世界規模のコロナ危機に対応するために、成果の指標も

<sup>3</sup> シャリーア適格融資の一部として、正式な金利は設定されませんでした。返済金は手数料、利益の一部、又は現物と見なされました。

調整されました。コロナ危機は活動の実施状況に影響を与え、クラスターへの直接的な技術支援に遅れが生じました。本プロジェクトは、クラスターに技術支援を提供することを義務付け、クラスターが少なくとも1～2サイクルはリボルビングローンを利用し、コミュニティ貯蓄グループのメンバーが事業に取り組み、クラスターが主体的に行動し、ネットワークを広げ、連携を図れるよう支援しました。こうした活動は、プロジェクトの終了後もコミュニティが現在の体制を維持できる可能性の向上につながります。

## 成果の総合評価

本プロジェクトの総合的な成果は「満足」と評価されました。これは効果性の評価が「中」だったこと（受益者全体の収益の指標は目標の50%をわずかに下回る49%増だったことを除き、全ての成果レベルの指標が目標を達成又は超過）、プロジェクト開発目標の妥当性の評価が「高」だったことに基づいています。プロジェクト開発目標は引き続き、アフガニスタンの2017～2020年度国別パートナーシップ枠組み（CPF）と一致しており、人間開発から金融アクセスの向上、現地機関を利用したサービス提供の改善まで、当該CPFの4つの目標に直接貢献しました。





## アフガニスタン – 戦略的穀物備蓄

**グラント額：**本プロジェクトの総費用は2,998万ドルでした。内訳は、国際開発協会（IDA）の資金が2,030万ドル、世界銀行が管理するJSDFの資金が968万ドルでした。

**開発目標：**緊急事態の際に国内の一般家庭に必要な小麦を支給するための戦略的穀物備蓄を整備し、備蓄の管理を効率化します。

**状況：**中止

### プロジェクトの構成

#### コンポーネント1：制度インフラとキャパシティ・ビルディング

コンポーネント1（390万ドルのIDAグラント）の目的は、穀物備蓄の管理を担当する戦略的穀物備蓄公社の立ち上げを支援することでした。主な活動は、(1) 緊急事態に対応するための穀物在庫管理、穀物の国際貿易・物流を支援するための技術協力、(2) 計画の立案、モニタリング、管理・保守、品質管理、財務管理を支援するためのキャパシティ・ビルディング、(3) 緊急時に強化小麦粉を配布するための小麦強化プログラム等の開発、(4) 遠隔検知システムや地理情報システムに基づく、新たな小麦予測ツールの開発提案でした。

#### コンポーネント2：物理的インフラ

コンポーネント2（2,360万ドル。内、IDAの資金が1,480万ドル、JSDFの資金が880万ドル）の目的は、カブール、ヘラート、カンダハールに3つのグリーンフィールド・サイロを設置し、マザリシャリーフとポレ・ホムリにある2つのサイロを修繕し、バダフシャーン県北東部に新たな倉庫を建設することでした。

#### コンポーネント3：プロジェクト管理

コンポーネント3（246万ドル。内、IDAからのグラント資金が160万ドル、JSDFの資金が80万ドル）の目的は、プロジェクト実施ユニットの設立と運営に関する活動を支援することでした。同ユニットは、穀物備蓄の管理体制の設計・構築を含め、プロジェクトの管理・実施に関する全ての活動を担います。

## 実施中の変更

アフガニスタン政府がコロナ危機に対応するために支出の優先順位を見直し、それを受けて世界銀行が融資ポートフォリオを調整したことから、本プロジェクトは中止となりました。アフガニスタンは2020年2月にコロナ危機に見舞われ、食料サプライチェーンに大きな混乱が生じました。IDAの資金は不足していたため、世界銀行は既存のプロジェクトのポートフォリオを調整することで、すぐに利用できる資金を捻出し、アフガニスタンのコロナ危機対応に充当しました。本プロジェクトは、プロジェクト活動に大幅な遅れが生じており、調達の問題からグラントの実行率も低かったことから、中止の候補に上がりました。本プロジェクトは2017年11月に開始して以来、長く遅延に悩まされてきました。遅れは、プロジェクトの総費用の79%を占める、最大の投資先だった穀物サイロの建設・修復と、建設した穀物サイロの管理を担当する国営の戦略的穀物備蓄公社の設立の両方で見られました。原因は、カブール、ヘラート、カンダハールに鋼製サイロを建設し、マザーリシャリーフとポレ・ホムリの鋼製サイロを修復する上で発生していた、調達関連の重要な課題にありました。プロジェクトの開始から2年以上がすぎても、サイロや倉庫の建設・修復に必要な調達は完了していませんでした。戦略的穀物備蓄公社の設立も、ごく初期の段階にとどまっていた。進展はほとんどなかったため、プロジェクトを早期に終了しても大きな損失はないと考えられました。2020年6月にコロナ危機対応のためにポートフォリオの大規模な調整が話し合われ、その結果、本プロジェクトは当初のプロジェクト終了日である2022年7月1日を待たず、2020年8月31日に終了することが決定されました。この決定を受けて、入札段階にあったサイロ工事の調達パッケージを含む、全てのプロジェクト活動は中止されました。プロジェクトの終了時に、アフガニスタン政府からは戦略的穀物備蓄や戦略的穀物備蓄公社の設立に関する将来の計画は示されませんでした。本プロジェクトは、実施が本格化する前に中止され、JSDF グラントは返還されました。



## 4. アウトリーチ、知識、プログラムの管理



### 4.1 JSDF 対話シリーズ

日本社会開発基金（JSDF）は、2021～22年度もステークホルダーに対するアウトリーチ活動と知識の管理に重点的に取り組みました。JSDF 対話シリーズは、世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）と世界銀行東京事務所の協力の下で実施されています。JSDF グラントの実施から得られた成果と教訓を日本の実務者、学者、市民社会組織（CSO）、非政府組織（NGO）、その他ステークホルダーに周知するため、2012年度からJSDF 対話シリーズが始まりました。対話シリーズは、日本のCSO・NGOがJSDFとその仕組みに対する理解を深める助けとなっています。JSDFの成果と教訓を日本の実務者や一般の人々に伝えることは、日本の開発実務者ネットワークの拡大にも貢献しました。

#### カンボジア — より良いサービス実現のための社会的説明責任プロジェクト

2021年4月に東京で開催された第12回対話セミナーでは、世界銀行グループの「発言と行動：より良いサービス実現のための社会的説明責任」プロジェクトが取り上げられました。

JSDFは、カンボジアの社会的説明責任に関するこのプロジェクトに490万ドルを提供しました。本プロジェクトの目的は、学校や保健センター、地区におけるサービスの提供を改善し、対象となる郡の農村部において、約270万人（82万789人のコミュニティ住民と95万844人の子供を含む）を支援することです。本プロジェクトは、現地の政府及びサービス提供者がコミュニティと連携しながら、社会的説明責任枠組み（I-SAF）プロセスに沿って実施しました。

本プロジェクトの目的は、I-SAF を通じて、カンボジアの社会的説明責任を強化することです。その手段として、市民と当局の建設的関与という新しい文化の導入と拡大、経験豊富な個人・組織による社会的説明責任プロセスの促進を通じて、市民のエンパワーメント、地方自治体と市民のパートナーシップの強化、地方自治体と現地のサービス提供者の説明責任の強化を図りました。

対話セミナーには、日本政府、世界銀行グループ、現地 NGO の代表者らが参加しました。主な登壇者は次の通りです。

**田部真史**

日本国財務省国際局開発機関課長

**宮崎成人**

世界銀行駐日特別代表

**ダーク・レイナーマン**

世界銀行信託基金・パートナーシップ局長

**サディグ・アリエブ**

世界銀行カンボジア担当局長代行

**エリック・ジョンソン**

世界銀行上級社会開発専門官

**ソタリス・ライ**

ワールド・ビジョン・インターナショナル・  
カンボジア上級プロジェクト・マネージャー

**マテュー・アンドレ**

ワールド・ビジョン・インターナショナル・  
カンボジア ISAF 技術リード

**ポー・テアラ**

プレアヴィヒア州コミュニティ説明責任  
ファシリテーター

**スライ・ピセス**

プレアヴィヒア州保健センター長

**大森功一**

世界銀行東京事務所上級対外関係担当官



## ベトナム — 北部山岳地帯の総合的小児栄養改善プロジェクト

2022年6月に第13回対話セミナーが世界銀行と日本政府の年次コンサルテーションのサイドイベントとして開催されました。

セミナーでは、**北部山岳地帯の総合的小児栄養改善プロジェクト**が紹介されました。このプロジェクトはベトナム北部の不利な立場にある村落において、約1万4,000人の5歳未満児と5,000人以上の妊婦を支援するもので、セーブ・ザ・チルドレン・ベトナムが実施し、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンも一部協力しました。プロジェクトを監督し、終了後も成果を維持するために、自治体と協力しながら、授乳や社会的準備、研修、アウトリーチ活動からなる総合的なパッケージが導入されました。

セミナーでは、日本政府、世界銀行グループ、ベトナム政府、実施機関であるNGOの代表者が声明を発表し、プレゼンテーションを行いました。主な参加者は次の通りです。

### 田部真史

日本国財務省国際局開発機関課長

### ダーク・レイナーマン

世界銀行信託基金・パートナーシップ局長

### クリストフ・ルミエール

世界銀行人間開発プログラム・リーダー  
(ベトナム担当)

### フォン・ラン・ダオ

世界銀行上級保健専門官

### ヴォン・ディン・ザップ

セーブ・ザ・チルドレン・ベトナムプログラム  
実施担当ディレクター

### 榑野耕介

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン プログラム・  
コーディネーター

### トラン・ダン・コア

ベトナム保健省副局長

### ホアン・アイン・トゥアン

ベトナム保健省母子保健局

### 大森功一

世界銀行東京事務所上級対外関係担当官



## 4.2 プログラムの管理と運営

JSDFの管理は、開発金融総局信託基金・パートナーシップ局（DFTPR）、具体的にはDFTPR局長が率いる数名体制のプログラム管理チームが担っています。事務局の主な業務は次の通りです。

- 政策・プログラムの立案と事業開発（具体的には、プログラムの戦略的優先事項の設定、セクター・テーマ別ウィンドウの設置、プロポーザルやプログラム・レベルの成果枠組みの開発管理等の主導）。
- タスクチーム・リーダー（TTL）が提出したコンセプト・ノート及びグラント・プロポーザルを、日本の財務省に提出する前にレビューし、内容を確認。
- 日本政府の拠出金の管理。
- グラント枠組みの変更依頼、実施完了報告書（ICR）、プロジェクト運営マニュアルのレビュー及び承認。
- TTLによるプロジェクト会計報告書（プロジェクトの全ての支出が条件を満たしており、監査済みであることの確認）の迅速な提出の徹底。
- 現地視察を通じてプロジェクトの実施状況とその成果を評価し、関係者やプロジェクト受益者と対話。

上記に加えて、世界銀行は新規承認グラントや実施中のグラント、終了したグラントの開発成果に関する報告書を日本政府に提出しています。これらの報告書はJSDFのウェブサイトでご覧が可能です。また、監査済の年次財務諸表及び未監査の四半期財務諸表も引き続き日本政府に提出しています。

## 4.3 日本の認知度向上戦略

JSDF プログラムは、革新的な開発プログラムのリーダーである日本の認知度を高め、開発へのコミットメントを支える日本政府の多大な貢献を広く伝えていくことを優先事項に掲げています。

プロジェクトに関する文書やビデオ、プレスリリースには JSDF と日本政府のロゴが使用されます。また、グラントの署名式典や発足イベント、視察等のプロジェクト関連の式典には日本大使館の職員を招待しています。現地視察では、JSDF プログラム運営チームが日本大使館及び国際協力機構（JICA）の代表者と面談し、JSDF グラントの実施状況に対するチームの考えを報告します。JSDF チームは、ドナーの認知度に関するガイダンス・ノートも世界銀行グループのタスクチームや実施機関に配布しています。

日本の政府と国民は 20 年以上にわたり、JSDF に確固たる多大な支援を行ってきました。JSDF はドナーの認知度向上を重視しており、資金面での日本の貢献をプロジェクト受益者が認識するための取組みに力を入れています。JSDF の活動が今後も成果を上げるためには、日本政府、世界銀行グループのタスクチーム、グラントの実施機関及びその他のステークホルダーが強力なパートナーシップを維持することが不可欠です。JSDF プログラム管理チームは「広報キット」を作成し、プロジェクトの実施期間中や知識共有イベントの際に配布しています。日本の貢献を可視化し、援助受入国における JSDF の認知度を高めるため、世界銀行のタスクチーム・リーダー（TTL）には以下の活動が義務づけられています。



- JSDF グラントの支援を受けた出版物、研修プログラム、セミナー、ワークショップでは、その活動が JSDF から資金提供を受けていることを明示。
- JSDF が支援した出版物の他、セミナーや研修プログラムで使用するバナーや資料には日本国旗を掲載。
- 世界銀行が発表する JSDF グラント関連のプレスリリースでは、日本政府からの資金援助に言及。
- 援助受入国は JSDF の活動が地元の紙・電子媒体で取り上げられるよう努め、関連する全ての広報資料や公式文書、報告書、出版物に、日本が開発パートナーとして資金を提供したことを明記。
- プロジェクトの発足イベントは可能な限り現地で開催し、援助受入国は必ず日本の大使館職員と現地及び国際的な報道機関を式典に招待。
- 世界銀行の TTL には、プロジェクト発足式典に日本の大使館職員及び政府の上級職員を招くことを推奨。





## 5. 結論



### 5.1 2022 年度独立評価の結果

2022 年度、世界銀行は日本社会開発基金（JSDF）の過去 7 年間の活動に対する独立評価をダルバーク・アドバイザーズに委託しました。データの収集・分析は複数の手法を組み合わせることで実施されました。キー・インフォーマント・インタビュー、世界銀行のタスクチーム・リーダー（TTL）に対する調査、46 件のグラントの文書レビューに加えて、10 件の JSDF グラントの精査、9 カ国（ボリビア、カンボジア、ジブチ、エジプト、ガーナ、グアテマラ、インド、ケニア、ウガンダ）の現地視察を実施しました。独立評価結果の報告書には、JSDF が開発効果を高め、生活の質を向上させるために、どのような活動を展開しているかがまとめられています。分析作業は 2022 年度に実施されましたが、分析対象となったプロジェクトには本報告の対象期間である 2021～22 年度には実施されていなかった古いプロジェクトも含まれています。独立評価チームの提言を実行するための行動計画を含む、次のステップについては現在、世界銀行と日本政府による協議が進められており、新年度に合意に至る予定です。

#### JSDF のインパクト：概要

独立評価チームは、評価対象となったグラントの大多数は各国の開発優先課題との関連性が高いと結論しました。これらのグラントは、全ての JSDF グラントに求められている通り、各国の国別パートナーシップ枠組み（CPF）に概説された国別開発戦略に沿ったものとなっていました。CPF は、世界銀行グループが各国の開発プログラムを支援する際の指針となるもので、世界銀行グループが極度の貧困の撲滅と繁栄の共有の促進を達成するための支援を提供する際の重要な目標と開発成果がまとめられています。文書のレビューと現地視察の結果、グラントは様々な形で受益者のニーズに直接対応していることが分かりました。チームは、評価

した全てのグラントが参加型の設計プロセスを採用していたこと、それが結果として、プロジェクトの妥当性の高さにつながったと指摘しました。例えば、現地視察に参加したカンボジアの教育・青少年・スポーツ省のステークホルダーは、「水上村落の早期幼児教育プロジェクト」は、国内の僻地に住む子供に早期幼児教育を提供するというカンボジア政府の優先事項と密接に関連していると指摘しました。

## 妥当性

JSDF は、開発資金の深刻な不足を補う一方で、世界銀行の他の資金提供機会にはない、独自の価値を提案しています。世界銀行の TTL に対する調査では、回答者の 94% が JSDF グラントは他のドナーや政府とは異なる方法で開発資金の不足を補い、各国の開発課題に対応していると回答しました。TTL が指摘した JSDF グラントの大きな特徴は、(1) TTL と現地の実施機関が協力して脆弱なコミュニティに働きかけるため、地域のニーズに合った支援を提供できる、(2) TTL が他の組織と協力して新しい支援策を試すためには不可欠だが、不足している資金を確保できる（このパイロット・アプローチとイノベーションを重視する姿勢により、新しい支援策をまずは小さい規模で試し、その後拡大して展開できるため、大規模プロジェクトの成功率が高まる）、(3) 評価対象となった 46 件のグラントが、様々な新しい取組みに活用されることが示す通り、JSDF はイノベーションの推進役である、の 3 点です。先駆的な支援を実現するためには、グラントの革新性を設計段階から示すことを TTL に明確に義務付けることが必要となります。

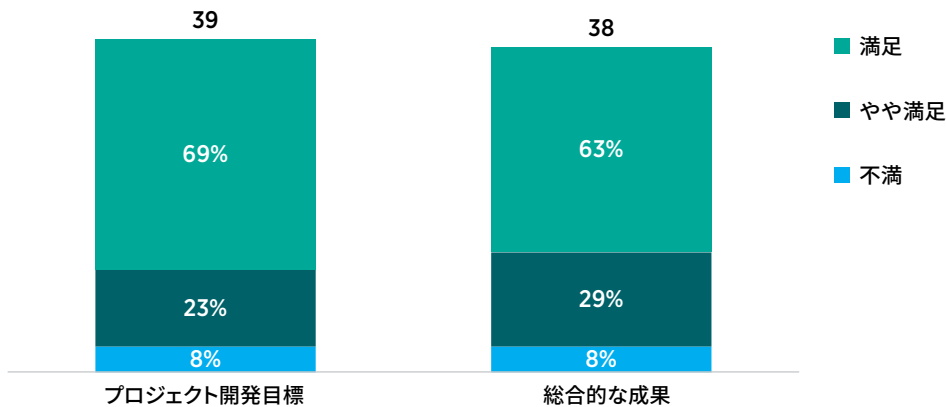
## イノベーション

評価対象となった 46 件のグラントでは、多数の新しいアイデアが実行されました。これは JSDF の支援がイノベーションを促進する役割を果たしていることを示しています。例えばカンボジアの「発言と行動」プロジェクトが、「社会的説明責任フレームワークの実施 (I-SAF)」のパートナーシップ運営委員会や、現地のコミュニティ説明責任ファシリテーターを活用する際に用いたアプローチは、カンボジアでは初の試みでした。このアプローチは、「カンボジアの歴史をふまえれば、極めて革新的」と評価され、現在も規模を拡大して活用されています。同様に、カンボジアの「水上村落の早期幼児教育」プロジェクトでは、水上と陸上に早期幼児教育センターを建設するという革新的な方法で僻地の子供たちを支援しました。同様に、エジプトの「総合的衛生・下水道インフラ」プロジェクトは、同国初の分散型衛生技術を導入しました。

## 効果性

**図 6.1.1 の通り**、評価対象となったグラントの大多数はプロジェクト開発目標を達成していました。この結果は、ほとんどの JSDF プロジェクトが効果的であり、グラントの設計段階で定めたイン

## 図 5.1.1 1) プロジェクト開発目標と 2) 総合的な成果に基づく有効性評価 (プロジェクト数)



出典：Dalberg 2023

プロジェクト目標を達成する可能性が高いことを明確に示しています。文書ベースの評価では、評価対象となったプロジェクトの92%がプロジェクト開発目標の達成状況について、やや満足、又は完全に満足と回答しました。これはプログラムの効果性の高さを示しています。一方、ジェンダーバランスについては評価結果にばらつきが見られました。評価対象となったグラントの内、ジェンダー指標を含むものは68%しかなく、その中でもジェンダー目標を達成したものとなると、わずか50%でした。現地視察は、ジェンダー指標の改善が受益者にもたらしたインパクトの規模を知る助けとなりました。例えば「ケニア農村女性の農業市場・貿易へのアクセス加速」プロジェクトでは、女性（そのほとんどが夫に経済的に依存している専業主婦）が、その日暮らしの初歩的な農業からアグリビジネスに移行しつつあることが、現地視察で得た証言によって明らかになりました。

### 有効性

評価結果は、現地の政府や NGO・CSO と協力することにより、JSDF が受益者のニーズに沿ったプロジェクトの設計、対象となる受益者の効率的な支援効率、現地の実施能力を強化できることを示しています。JSDF は実施機関のキャパシティ・ビルディングを支援するために、各分野の専門知識、技術研修やモニタリング・評価に関する研修、データ収集の支援、調達・財務管理に関するガイダンスを提供しています。JSDF がキャパシティ・ビルディングを重視していることは、プロジェクトの成果を持続させるための土台を築く上で極めて重要です。例えば、ある現地 NGO は「シンプルなツールを使って、成果を科学的に測定する方法について多くを学んだ」と述べました。実施機関向けの研修を実施し、重要な施設（ウガンダの植物組織培養研究所やインドの高エネルギー食品の工場等）の整備を支援することで、プロジェクトは現地の組織がグラント期間の終了後も成果を持続するためのノウハウを蓄積し、必要なインフラを構築できるようにしています。

JSDF グラントは、NGO・CSO や自治体と共同でプロジェクトを実施することにより、中央政府が見落としやすいコミュニティ固有の課題に対応できる可能性があります。NGO・CSO や自治体組織はコミュニティ・レベルで活動しているため、貧困を悪化させる要因を特定し、新しい解決策を見つけるための支援を提供しやすい立場にあります。

## 持続可能性

図 6.1.2 の通り、プロジェクトは 4 つのチャンネル（成果の持続可能性、世界銀行による採用と拡大、開発パートナーによる導入と拡大、政府による導入と拡大）のいずれかを通じて、プロジェクトの成果を持続させました。詳細調査の対象となったプロジェクトでは、スキルやインフラを継続的に利用したり、グラントによって実現したサービスを継続的に提供したりすることで成果を持続させているケースが多く見られました。例えばガーナの農村所得創出プロジェクトの受益者は、プロジェクト期間に受けた研修とグラントをもとに事業を立ち上げることで、プロジェクトの終了後も継続的に収入を得ることができました。文書ベースの評価では、プロジェクトの成果が維持されているかどうかを評価するための情報は限られていたものの、多くのプロジェクトに成果を持続させるための工夫が見られました。例えば、モザンビークの「首都マプトの周辺部の衛生状態改善」プロジェクトは、都市の長期的な衛生状態を改善するために民間セクターを活用していました。具体的には、零細企業に汚水回収サービスを始めるための機器を提供し、事業を黒字化できるよう支援することで、グラント期間の終了後も事業を継続できるようにしました。一部のプロジェクトやコンセプトは世界銀行のプログラムにも導入され、広く展開されました。例えば、ウガンダの「小規模農家の栄養強化に向けた総合アプローチ」で実証されたアプローチは、その後、世界銀行のはるかに規模の大きい「マルチセクター栄養プロジェクト」に組み込まれました。開発パートナーや政府による導入と拡大も、成果を持続させるために広く使われている手法であり、現地視察の対象となった

### 図 5.1.2 プロジェクトの持続可能性チャンネル

チャンネル	説明
1 成果の持続可能性	プロジェクトの終了後も成果を持続させる仕組みを作る (例:インフラを改善することで、長期にわたってサービスへのアクセスを確保する)
2 世界銀行による導入と拡大	プロジェクトの終了後、世界銀行がプロジェクトの枠組みとアプローチを国内プログラムに導入し、拡大する
3 開発パートナーによる導入と拡大	プロジェクトの終了後、開発パートナー(通常はJSDFのパイロット・プログラムを広く展開したいと考えているNGO)が、プロジェクトの枠組みとアプローチをプログラムに導入し、拡大する
4 政府による導入と拡大	プロジェクトの終了後、政府がプロジェクトの枠組みとアプローチを政策やプログラムに導入し、拡大する

出典：Dalberg 2023

グラントの 50% に見られました。例えば JSDF がグアテマラで実施した「貧しい農村部の幼児開発と栄養改善パイロット」プロジェクトでは、プロジェクトの終了後、その成果をチャイルド・ファンドがレゴ財団に伝え、当該プロジェクトをより大規模に実施するための資金を同財団から調達しました。また、文書レビューの対象となったグラントの 83% が、プロジェクトの支援を継続した、又はその教訓を他の開発活動に取り入れたと報告しています。

## 独立評価報告書の結論

JSDF グラントは、地域のニーズに合わせたインパクトとイノベーションを実現し、成果を持続させる仕組みを作る上で大きな役割を果たしています。JSDF のパイロット・アプローチは、新たなアプローチ試行を可能にするもので、受益者のニーズに沿って開発課題に対応していくためには、NGO・CSO や自治体との連携が不可欠であるという前提に立っています。この仕組みは、融資を利用できない場合にタスクチーム・リーダーが資金を確保する手段にもなっています。評価対象となったグラントの大多数が高い有効性を認められ、かつ成果を持続させる仕組みも導入していたという事実も、JSDF のインパクトを浮き彫りにするものです。ダルバーグの評価報告書には、JSDF が今後も高い成果を上げていくために検討すべき活動・戦略上の課題も明記されています。

## 5.2 未来に向けて

JSDF が、設立から 20 年以上がたっても高いインパクトを生み出し続けている大きな理由は、日本の政府と国民の継続的な貢献にあります。JSDF のプロジェクトがもたらした開発成果は、世界銀行グループに加盟している低所得国及び低中所得国の人々を力強く支えてきました。また、JSDF の革新的なモデルは世界銀行グループの開発プログラムはもちろん、他の多国間ドナーや国内ドナーが支援する開発プログラムの設計にも影響を与えています。

JSDF の設立から 21 年を迎えた今、JSDF は長年のパートナーシップから得た教訓と、最新の独立評価の結果を今後の活動に生かしたいと考えています。今後も革新的な貧困削減策のパイロット・プロジェクトに取り組み、めまぐるしく変化する世界において、世界銀行が人々の生活の質を向上させる開発ソリューションの原動力となることができるよう支援していきます。また、日本政府が政府開発援助（ODA）の目標を達成し、世界銀行グループが極度の貧困の撲滅と繁栄の共有の促進、地球環境の保全という新たな使命を果たせるように引き続き全力で取り組んでいきます。

持続可能性は JSDF の活動を貫く重要なテーマです。JSDF は開発プロジェクトが目標を達成し、さらには超えられるよう支援することで、途上国の人々に長期的な利益をもたらしてしてきました。持続可能性に対する JSDF のコミットメントは、政府や国際開発機関の枠を超えて広がっています。JSDF のグラントとキャパシティ・ビルディングを重視する姿勢は、多くのプロジェクトにおいて、コミュニティがドナー機関の影響を受けることなく、開発の方向性を自ら決定することを

可能にしてきました。JSDF のグラントを使って構築されたスキルは再現性と拡張性が高く、多くの場合、開発プロジェクトの終了後も長期にわたって活用され、現地の長期的な開発に貢献しています。

JSDF は今後も、開発資金の不足を補いながら、十分な対応がなされていない開発課題に光を当てていきたいと考えています。これからも新たな戦略のパイロット・プログラムを通じて開発インパクトの向上に貢献し、世界銀行グループ、政府や自治体、民間ドナー、NGO・CSO の関係者と緊密に連携しながら、過去の活動から得た教訓を活用していきます。

今後も人間中心の開発ソリューションにこだわり、低所得国及び低中所得国の草の根レベルのニーズに対応しながら、生活の質向上とコミュニティへの説明責任を担うコミュニティ・ベースの組織の設立と成長を支援していきます。また、知識の普及と学習を促進するための資源を動員するという使命を果たすために、この重要な戦略的価値に対するアプローチを革新し続けていきます。

世界銀行は 2023 年度に「世界銀行ロードマップ (Evolution Roadmap)」を採択し、新たな時代へと一歩を踏み出しました。その結果、貧困削減とイノベーションに対する JSDF の貢献は、これまで以上に重要性を増しています。JSDF は、開発資金の深刻な不足を補い、世界銀行の他の資金提供機会にはない独自の価値を提案することで、世界銀行のチームが現地の実施機関や非政府組織 (NGO) と協力しながら脆弱なコミュニティを支援することを可能にすると共に、様々なパイロット・プロジェクトとその明確な拡大戦略を通じて、これまでになかった支援アプローチの実現を支えています。長年にわたり、高い効率と開発インパクトを実現してきた実績をもとに、JSDF は他の組織にはできない方法で、世界銀行の新たな開発ビジョンの実現に貢献します。

# ANNEX 1

## BACKGROUND TABLES



**Table A.1**  
Regular Program Grants Active during Fiscal 2021–22  
(Recipient-Executed)

Country	Trust Fund (TF) Name	Closing Date	Grant Amount (US\$)
<b>Projects Active at the End of the Reporting Period</b>			
<b>Armenia</b>	Promoting Social Inclusion and Self-Reliant Livelihood Activities in Armenia	6/30/2023	2,700,000
<b>Bhutan</b>	Youth Employment and Rural Entrepreneurship Project	12/31/2022	1,241,507
<b>Burkina Faso</b>	Improving Education of Children with Disabilities	10/30/2024	2,752,310
<b>Cambodia</b>	Cambodia – Community-Based Childcare for Garment Factory Workers Project	3/31/2024	2,700,000
<b>Cambodia</b>	Cambodia – Sustainable Livelihood for Indigenous Communities Project	12/31/2025	2,746,732
<b>Djibouti</b>	Empowering Communities for Better Nutrition Project	3/31/2025	2,504,400
<b>Ghana</b>	Ghana – Improved Feeding Practices for First 1,000 Days Project	8/31/2023	2,860,000
<b>Honduras</b>	Improving the Livelihoods of Miskito Indigenous Peoples in La Moskitia	2/28/2024	2,722,200
<b>India</b>	India – Digital Financial Inclusion of Informal Sector Project	4/30/2023	2,730,000
<b>Jordan</b>	Jordan – Integrated Social Services for Vulnerable Youth	11/30/2023	2,800,300
<b>Kenya</b>	Improved Livelihood Opportunities and Accessibility for Underserved Urban Communities in Meru	6/30/2025	2,750,000
<b>Kosovo</b>	Supporting Youth Inclusive Local Development in Kosovo	7/31/2024	2,785,000
<b>Kyrgyz Republic</b>	Kyrgyz Republic – Livelihoods for Youth Community Support Project	1/15/2023	2,601,437
<b>Lao PDR</b>	Public Information and Awareness Services for Vulnerable Communities in Lao PDR	7/31/2024	2,505,020
<b>Mongolia</b>	Entrepreneurship-Focused Socioemotional Skills for the Most Vulnerable Youth in Rural Mongolia	12/31/2023	2,752,295
<b>Morocco</b>	Morocco – Community-Based Rural Roads Maintenance	12/31/2023	2,850,000
<b>Myanmar</b>	Enhancing Community-Driven Development Project	12/31/2023	25,000,000
<b>Nicaragua</b>	Nicaragua Dry Corridor Nutrition-Sensitive Agriculture Project	3/31/2025	2,739,800
<b>Rwanda</b>	Rwanda – Advancing Citizen Engagement Project	12/31/2024	2,730,000
<b>Solomon Islands</b>	Solomon Islands – Community Benefit-Sharing Pilot Project	5/31/2023	2,800,000
<b>Timor-Leste</b>	Timor-Leste COVID-19 and Health Systems Strengthening Support Project	4/30/2025	2,750,000
<b>Ukraine</b>	Ukraine: Community-Based Social Service Delivery Project	10/31/2023	2,850,000
<b>Uzbekistan</b>	Enhancing Economic Opportunities for Rural Women	12/31/2024	2,728,800

(continues)



**Table A.1**  
**Regular Program Grants Active during Fiscal 2021–22**  
**(Recipient-Executed) (Continued)**

Country	Trust Fund (TF) Name	Closing Date	Grant Amount (US\$)
<b>Vietnam</b>	Strengthening Preparedness and Response to COVID-19 at the Grassroots Level in Vietnam	12/31/2024	2,750,000
<b>Vietnam</b>	Vietnam – Reducing Income- and Health-Related Vulnerability of Older Persons Project	12/31/2024	2,750,000
<b>West Bank and Gaza</b>	Palestinian Heritage Trail: Increased Economic Opportunities and Improved Livelihood for Fragile Communities Project	12/31/2025	2,400,000
<b>Zambia</b>	Zambia – Voice and Accountability: Community Empowerment for Improved Local Service Delivery Project	6/30/2025	2,750,000
<b>Projects Closed During the Reporting Period</b>			
<b>Burundi</b>	Burundi Maternal Child Nutrition Enhancement Project	8/15/2020	2,729,401
<b>Ethiopia</b>	Promoting Young Women’s Livelihoods and Nutrition Project	4/30/2021	1,520,490
<b>Ghana</b>	Ghana Peri-Urban Vegetables Value Chain Project	6/30/2021	2,850,000
<b>Iraq</b>	Promoting the Inclusion of Conflict-Affected Iraqi Youth	6/30/2022	2,583,629
<b>Kyrgyz Republic</b>	Engaging Communities for Better Schools in the Kyrgyz Republic	3/31/2022	2,623,087
<b>Malawi</b>	Adolescent Nutrition-Sensitive Agriculture Pilot Project	12/31/2021	2,730,000
<b>Sierra Leone</b>	Strengthening Community Mobilization and Local Council Service Delivery in the Post-Ebola Context	12/27/2020	2,746,253
<b>Vietnam</b>	VIETNAM – Northern Mountain Integrated Child Nutrition Improvement Project	12/31/2021	2,786,700

Source: DFTPR

Note: Each recipient-executed grant was accompanied by a Bank-executed grant for implementation support, typically amounting to up to 9% of the recipient-executed grant amount, but these are not included in the table data.



**Table A.2****Regular Program Grants Approved in Fiscal 2021–22****JSDF PROGRAM GRANTS APPROVED IN FY21**

	<b>Project Name</b>	<b>Amount (US\$)</b>	<b>Project Development Objectives</b>
1	Nicaragua Dry Corridor Nutrition-Sensitive Agriculture Project (P164134)	\$2,999,800	To strengthen agricultural productivity, climate resilience, and nutritional security in select municipalities of the Dry Corridor of Nicaragua.
2	Rwanda: Advancing Citizen Engagement (ACE) Project (P172862)	\$3,000,000	To improve livelihoods for 17,750 households/ 76,000 people and build capacity of communities and national and local government for citizen engagement in 249 villages in Rwanda.
3	Uzbekistan: Support to Local Development and Livelihood Opportunities for Rural Women and Youth in Uzbekistan (P171760)	\$2,998,800	To increase economic opportunities for vulnerable rural women in the project areas through skills development and improved access to finance and markets.
4	Lao PDR: Public Information and Awareness Services for Vulnerable Communities in Lao PDR (P170640)	\$2,730,472	To improve access to legal information and counseling services for 15,000 poor and vulnerable persons (of which 60% are women) in select rural districts to enhance the protection and fulfilment of their natural resources and livelihood rights.
5	Kenya: Improved Livelihood Opportunities and Accessibility for Underserved Urban Communities in Meru, Kenya (P163035)	\$3,000,000	To (1) create employment opportunities and skills in labor-based road maintenance and (2) improve the basic access of the target population of the selected underserved urban communities in Meru Town.
6	Cambodia Sustainable Livelihood for Indigenous Communities Project (CSLICP) (P174951)	\$2,993,938	To improve the incomes of targeted indigenous communities (ICs) in the provinces of Ratanakiri and Mondulkiri, through the implementation of innovative rural livelihood development programs, including farming and off-farm and non-farm activities.
7	Voice and Accountability: Community Empowerment for Improved Local Service Delivery in Zambia (P173472)	\$3,000,000	To strengthen community awareness and participation with school management and local authorities for accountable primary and secondary education services in the nine selected districts in Zambia.
8	Vietnam: Strengthening Preparedness and Response to COVID-19 at the Grassroots Level (P174401)	\$3,000,000	To strengthen the capacity of communities, including community leaders, health and other sectors, civil society organizations (CSOs), and vulnerable populations in their preparedness and response to the COVID-19 pandemic, as well as other health emergencies in the project's provinces.
9	Timor-Leste COVID-19 and Health Systems Strengthening Support Project (P175401)	\$2,997,500	To strengthen the capacity of communities in their preparedness for and response to COVID-19 and other health emergencies.
<b>TOTAL</b>		<b>\$26,720,510</b>	

Source: DFTPR

## JSDF PROGRAM GRANTS APPROVED IN FY22

	Project Name	Amount (in \$Million)	Project Development Objectives
1	West Bank and Gaza – Palestine Heritage Trail: Increased Economic Opportunities and Improved Livelihood for Fragile Communities	\$2,600,000	To increase economic opportunities and improve the livelihood of Palestinians in fragile communities along the Palestinian Heritage Trail, across the West Bank, with a special focus on women and youth.
2	Vietnam – Improved Delivery of Legal Aid for the Poor and Vulnerable*	\$2,725,000	To improve the delivery of legal aid and promote legal empowerment of select vulnerable groups in selected provinces in the Northern Mountain Region.
3	Djibouti – Improving Health Sector Performance and Empowering Communities for Better Nutrition	\$2,752,200	To increase access to community-based child and adolescent/youth nutrition services in target areas.
4	Indonesia – Inclusive Livelihoods for Poor Rural Communities in Eastern Indonesia Project*	\$2,975,700	To provide increased access to livelihood opportunities for populations vulnerable to poverty and food insecurity in 80 target villages in Maluku and East Nusa Tenggara provinces in Eastern Indonesia.
<b>TOTAL</b>		<b>\$11,052,900</b>	

Source: DFTPR

Note: \* Indicates that these projects were approved by the government of Japan (GoJ) in FY22, but the associated TF grants were activated in FY23, so they are not included in the portfolio under consideration for this report, which consists of the TF grants active during Fiscal 2021–22.

## 写真提供:

表紙、iv、v、ix、1、5、19、21、33、35、45、55、67、68、70、71、73 ページ:©JSDF 写真ライブラリー、TTL 提供。再利用率は、さらなる許可が必要です。

xiii ページ:©Stephan Bachenheimer/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

3 ページ:©Flore de Préneuf/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

13 ページ:©Armine Grigoryan/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

14 ページ:©Daniella Van Leggelo-Padilla/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

15 ページ:©Nick van Praag/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

17 ページ:©Jonathan Ramalho/Unsplash。再利用率は、さらなる許可が必要です。

23 ページ:©Carlos/Adobe Stock。再利用率は、さらなる許可が必要です。

25 ページ:©Curt Carnemark/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

27 ページ:©Lundrim Aliu/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

29 ページ:©Mohamed Azakir/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

31 ページ:©Tobin Greensweig/Direct Relief。再利用率は、さらなる許可が必要です。

37 ページ:©Abdul-Razaq Allie/Unsplash。再利用率は、さらなる許可が必要です。

39 ページ:©Aigul Eshtaeva/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

41 ページ:©Ying Yu/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

43 ページ:©Olivier Badoh/Global Partnership for Education。再利用率は、さらなる許可が必要です。

47 ページ:©HUMA/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

49 ページ:©Liv Unni Sødem/Flickr。再利用率は、さらなる許可が必要です。

51 ページ:©Dominic Chavez/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

53 ページ:©Tran Thi Hoa/ 世界銀行。再利用率は、さらなる許可が必要です。

57 ページ:©Eva Blue/Unsplash。再利用率は、さらなる許可が必要です。

60 ページ:©Zbynek Burival/Unsplash。再利用率は、さらなる許可が必要です。

62 ページ:©Sohrab Samanian/Assistance in Building Afghanistan by Developing Enterprises (ABADE) Program via Flickr。再利用率は、さらなる許可が必要です。

65 ページ:©Pic Studio/Unsplash。再利用率は、さらなる許可が必要です。



**日本社会開発基金**

JSDF プログラム・マネージャー

電話: 202-473-4130

Eメール: [yazarcon@worldbank.org](mailto:yazarcon@worldbank.org)

The World Bank Group

1818 H Street, N.W.

Washington, D.C. 20433



日本政府



世界銀行グループ  
開発金融総局